

三商同窓会報

ホームページアドレス

<http://tcsaa.jp/>



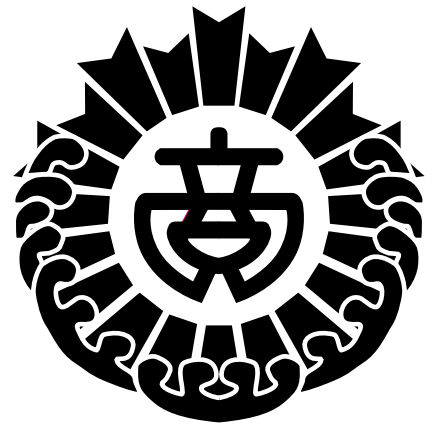
No.64

令和8年8月1日発行



令和8年度新年会 於 門前仲町東天紅

校歌



作詞 前田 夕暮
作曲 山田 耕
編曲 脇 則之

都の空は明けたり、今
希望は燃ゆる若きわれら
都立第三商業、ここに拠るや
日本の富を担ふわれら

富岳の雪を望む窓辺
理想は高し、若きわれら
都立第三商業、ここに居るや
都の栄えを築くわれら

東都の海の門にありて
心は濶し、若きわれら
都立第三商業、ここに立つや
江戸の誇りを継げるわれら

応援歌

作詞 多田 宏
作曲 池内 友次郎
編曲 青山 政憲

見よ、三商の旗じろし
T・C・Sの行くところ
旭日洗ふ波がしら
ここに刻む若人の
勝算すでに吾にあり
頑張れ三商、頑張れ三商

聞け、三商の底ぢから
T・C・Sのはた風は
歴史が語るその誉れ
受け継ぎ来たる若人の
命の誇り吾にあり
頑張れ三商、頑張れ三商

見よ、三商の鉄の陣
T・C・Sの旗の下
正義に結ぶ和のこころ
明るく強き若人の
凱歌はすでに吾にあり
頑張れ三商、頑張れ三商

(フレール・フレール・三商
フレツ・フレツ・三商
フレツ・フレツ・三商)



三商同窓会報 第64号 CONTENTS

校歌・応援歌・目次	「同窓会街歩きでのご縁(その三)」	—東京三商会から—
—ごあいさつ—	—第二十四期富川先輩との出会い—	第三商業高校の第1回海外交流プログラム
同窓会会長 三浦 康二 1	第三十三回東京校歌祭に 仲田 元昭 16	(カナダ バンクーバー) について 34
都立三商学校長 智片 将也 1	初めて参加しての雑感 仲田 元昭 21	
(公財)東京三商会理事長 杉本 光男 1	三商生活を振り返って 南 孝 22	次号のお知らせ 36
—第23期24期25期共同特集—	「ありがとう」神様の言葉 江角 喜一 23	ご寄付のお願い 37
浅草寺を訪ねて 三矢 和久 2	小さなドライブ紀行④ 江角 喜一 24	会報原稿募集 37
私の履歴書 井口 克彦 3	(古河市・ホテル山水)	
会報に向けて 今井 保 4	—同期会報告—	—同窓会より—
ご縁に結ばれた方々 富川 一男 5	第三十一期同期会報告 西邨 昭一 25	令和7年度 活動記録 38
山岳部の二十四期生 田中 武 8	第三十一期3年2組クラス会報告 西邨 昭一 26	令和7年度 会計報告 40
—寄稿・エッセイ—	第26期同期会を楽しむ 岩崎誠三郎 26	令和8年度 事業計画案 41
快打洗心!4番サード長嶋 江角 喜一 9	三商25期 最後の同期会開催 諸伏 守 27	令和8年度 収支予算 42
同窓生船橋歩き開催報告 仲田 元昭 10	校長先生うちあけ話	
—お知らせ 第8回同窓生船橋歩き開催— 14	第19代校長 浦部 利明 30	—広告のページ— 43
「我が町 船橋を歩く」	—同窓会事務局より—	
—私の街歩き人生— 仲田 元昭 14	都立第一商業高校の改編について 33	

ごあいさつ

助け合える豊かな人間関係

同窓会会長
第31期 三浦 康二

同窓会の私達の活動のために特に重要な他者を思いやる生き方について考えてみたいと思います。

私達の人生の途上で困難に直面しない人はいないと思います。そして悩んだ時に周囲からの励ましやアドバイ스가大きな支えになった経験を持つ人は多いと思います。一方「悩みはあるが人には相談しづらい」という人もいます。他者への思いやりが強い人ほど誰かを支えてあげるといふ。他者を思いやる気持ちをはぐくむことは自分が苦しい時に周囲への支えを求める一助にもなる。

私達が日々実践する同窓会の活動の根底には同窓生の幸福を願う心が脈打っています。偉人の言葉に「人のために火をともしれば我が前も明らかに」人のためにする行動は必ず自分のためにもなる。人のためにも生きる事は強く賢く、自分も他人も大切に生きていく事だと思います。目標もなくなった何となく生きていくだけではつまらない。明確な目標があつてこそ私達は前進できる。

私達同窓会は来年11月には母校都立三商創立100周年行事という大事な目標があればこそ皆

様と共に喜び助け合い、全員で同窓会の活動をしてまいりたいと思います。

ご挨拶

都立第三商業
学校長 智片 将也

同窓会員の皆様には、日頃より本校の教育活動に温かいご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年度は、公益財団法人東京三商会の基金を活用し、「生徒海外研修」を実施することができました。10名の生徒がカナダ・バンクーバーで語学研修に参加し、言葉や文化の違いに戸惑いながらも、自ら考え、積極的にコミュニケーションを図ることで、多くの学びを得て帰国しました。帰国後の報告会では、一回り成長した姿が大変印象的であり、このような貴重な機会を提供してくださった同窓会の皆様には、改めて深く感謝申し上げます。

また、レスリング部の全国高校総体出場やソフトボール部の東日本大会出場に際しても、同窓会から遠征費のご支援をいただきました。生徒たちは、多くの方々に支えられていることへの感謝を胸に、それぞれの舞台上で精一杯力を発揮してくれました。同窓会の存在は、生徒たちにとって大きな励みとなっています。

こうした同窓会の皆様のご支援は、学校の魅力向上にもつながっています。学校説明会では、海外研修制度や部活動への支援などを紹介しておりますが、その話に目を輝かせる中学生や保護者の姿を数

多く目にします。今年入学した96期生も、学習や学校行事に意欲的に取り組み、学校全体に新しい活力をもたらしています。

そして、令和9年度には本校創立100周年という大きな節目を迎えます。昨年12月には、三浦会長、杉本事務局長にもご参画いただき、創立100周年実行委員会を立ち上げました。100年の歴史を振り返るとともに、次の100年へ向けた新たな一歩となる記念事業となるよう、準備を進めております。

これまで本校を支えてくださった同窓生の皆様の思いを大切に受け継ぎながら、現在の在校生が新たな歴史を築いていく。その架け橋となる学校であり続けられるよう、私も教職員とともに力を尽くしてまいります。

今後とも、本校並びに同窓会のさらなる発展のため、変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶

公益財団法人東京三商会 理事長

第26期 杉本 光男

日頃より当公益財団法人東京三商会の事業に、ご支援ご協力を賜りあつく御礼申し上げます。

さて当財団の近況ですが、皆様方のご支援のおかげで奨学金給付事業、奨励奨学事業（海外研修）共順調に行われてきました。海外研修は昨年10名の生徒がカナダのバンクーバーで研修をしてきました。大きな成果をあげてきてくれました。今年も海外研修の10名決まり、7月23日に羽田を出発します。また奨学金給付事業の募集はすでに始まっています。応募者の書類が届いてきており、7月18日選考

第23期 第24期 第25期 合 同 特 集

委員会が開かれます。学費の無償化が進み応募状況が気になるところですが、多くの学生に支給できるよう頑張っています。

これからも将来社会に貢献できる優秀な人材育成の支援事業を肅々と進めてまいりますので皆様方の一層のご協力、ご支援を賜りますようお願いいたします。

浅草寺を訪ねて

第23期 三矢 和久

浅草寺のご本尊は観音様である。隅田川で漁をしていた漁師である浜成・竹成の兄弟の網にかかった像を土地の文化人である土師真仲知が、これは尊い聖観音像であると説き自邸に堂舎を構えて寺とした。是が起源である。現在の浅草寺は空襲で焼け、昭和三十三年に再建された建物である

浅草寺（観音堂）



風神雷門

入口である雷門は慶応二年に焼けたまま、昭和三十五年松下幸之助の寄進により、再建されるまで九十五年の間、名前だけで門は無かったのである。

門をくぐり抜けると仲見世が延長二百八十メートル続き、宝蔵門となる。



宝蔵門も空襲で焼け、昭和三十九年大谷米太郎の寄進により再建された。元は仁王門と言っていたが、宝物の保管場所でもあったので改称された。宝蔵門



正面の提灯には制作費として、一口三万円以上を寄付した人の名前が入っているが、現在空きが無く空き待ちである。
仲見世通りの観音堂に向かって左側に古い建物があるが、これが観音様の本坊の伝法院である。

伝法院正門



この中庭は浅草とは全く別世界の感がある静かな庭園で、今までは非公開であったが、最近では時期を限って公開されているので、訪れてはいかがかと思えます。
同級生の名前が記載されている

私の履歴書

第25期 井口 克彦



私は、高校時代2年間 部活は演劇部でした。1年先輩の斎藤さんが部長をされていた、この方が大変カリスマ性の高い先輩で、卒業後も会社勤めをし乍ら、約2年アマチュア演劇集団「ぐみの会」で活動しており、私も参加していました。

当時、会社の上司からは、辞めて大学の夜間部に行ったらどうだ、と説教されましたが、聞き流して

きました。

就職活動で、東レ、大洋漁業、積水化学と不合格でいたところ、英語を担当されていた岩永先生の紹介で、戦後総業した化学品の中堅会社、協和発酵工業（現在は協和キリンという社名）に入社しました。

人事部厚生課、健康保険組合、医薬業務課と、内勤業務をしていましたが、営業をしたくなって、当時の医薬品プロパー（現在はMRという専門職）を希望し、昭和44年から茨城県担当となりました。



4名の担当者がいて、当時は現地に事務所が無かったため毎週月曜から、水戸市内で旅館住まいをして、土曜日の午前中まで担当地域の病院や取引卸を回り、東京の自宅に帰るという生活を繰り返していましたが、体もしんどく会社の経費も掛かるため、上司に進言して現地駐在を提案しました。市内の一軒家を借りることにしましたが、私が探した物件が、部長クラスの住まいだ、とのことだから採めました。一部屋は事務所代わりになるよと言って最終的に了解して貰いました。全国で初めての駐在でした。これ以後駐在される営業マンが全国的に広まることになりました。

営業に出て私は、営業成績では学卒の人には絶対負けないという気持ちで頑張りました。サラリーマン生活で一番仕事をした数年でした。その甲斐あつ

て昭和48年、第1回目の欧州旅行15名の一人に選出されました。

昭和50年に取引卸担当の組織に移り、まず東京地区担当、昭和54年に高卒では最も早く課長になり、名古屋支社で東海4県を、東京支社で北関東甲信越を担当し、59歳で子会社出向、62歳で退職しました。

退職後、2年間地元自治会の役員を担当しながら、放送大学に入学し、5年掛けて教養課程の単位を取りました。



それから、地域のシルバーがメンバーの雑学大学サークルに入会し、月1回の活動に参加したり、週1回のスポーツ教室に行ったり、時代小説を読んだり、猫の世話をしたり、認知症の妻の通院の付き添いをしたりして現在に至っています。

何か自慢話ばかりで、恐縮ですが、年寄り最後の言ということでご寛恕ください。

最後に、皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

会報に向けて

第25期 今井 保

☆現世への未練☆

「老騎 厩に伏しても 志は千里にあり」

何時の間にか歳を重ね、今や八十路半ばを過ぎた。私が小学生だった頃は、大人の男性は五十歳から五十五歳までに他界していた。今のように寿命が延びたのは、国民皆保険制度と医療技術の進歩・医薬品の普及が寄与していますが、加えて食生活の改善と向上が大きな要因と思います。

私の現役時代は、健康診断でいつも「糖尿病境界型」・「高脂血症」と指摘された。しかし特に治療の勧めも無かったので、そのまま放っておいた。ところが七十歳代（2009年）に入ってから免疫力低下のせいか、糖尿病、狭心症、前立腺肥大等の諸症状が顕在化して日常生活に影響した。特に狭心症は過酷だった。家を出て三百メートルも歩くと心臓が苦しくなり、三十秒ほど休まなければならなかった。次からは五十メートル歩いては休み、また歩いては休むという具合で、何時倒れるのかと不安を感じる日々だった。

その時、幸いなことに循環器内科の名医に巡り会った。医師はレントゲン写真を撮り、心臓を動かす筋肉に血液を送る冠状動脈が硬化して血流が細まっている実態を確認した。日を置かず2012年1月に患部の血管内にステント（管）を留置する手術をして戴けた。私は医師に「これで何とか3〜4年は生き永らえますか?」と尋ねた。医師は「そう願って

います」と言った。この一言は私に大きな衝撃を与えた。

「私に残された時間は、そんなに短いのか！これは大変だ！冗談じゃない！負けてたまるか！」と心の奥底で叫んだ。

☆食事療法十年の成果☆

ところで、諸悪の根源である糖尿病に関しては、2009年に受診した人間ドックの結果「貴方は糖尿病です」と診断され、専門医を紹介された。幸運なことにその医師は、食事療法を厳しく指導する名医だった。

医師は先ず次のように述べた。「食事は一日1600キロカロリーに抑えてください。脂肪のついた肉・魚卵・鶏卵・レバー等は避けて、野菜類と魚を主体とした食事に切り替えるように。夕食の米飯は、100gに抑えること。」

私は「一日1600キロカロリーでは生きていけませんよ。」と抗弁した。

医師は「生きて行けます！」と冷厳に言い放った。



実践で培われた自信に満ちた言葉だった。

こうして、私の苦闘が始まった。まずは、女子栄養大学発行の「栄養成分表」を購入して食材ごとのカロリー計算をするのが日課になった。

今日の献立は何にするか、どれだけの量にするか、と思索した。何はともあれ日々の食事作りを実践した。当初は、食事の総摂取カロリーに気を奪われて、食材の適正な構成まで気が回らなかった。月一回の定期診察に際して、直近1週間の食事記録を提出した。医師は、資料を一瞥し「炭水化物ばかりですね。蛋白質も摂取するようにと注意された。

食事療法を始めて10年後の2019年に受診した人間ドックの結果を見ると、善玉コレステロール(HDL)は81、悪玉コレステロール(LDL)が77と表示されていた。これを見て私は「ヤッター」と喜びの叫びを上げた。

何故なら、高脂血症と書かれていた2009年2月の数値は、善玉コレステロール68、悪玉コレステロール156というように悪玉コレステロールが高く、善玉コレステロールは後塵を拝していたのが逆転したのです。食事療法の大きな成果と言えます。



都立庭園美術館にて
2025.10.05 撮影

その後、身体の状態は年を追って良好になり、2020年5月には、友人と二人で箱根「彫刻の森駅」から徒歩で早雲山、大涌谷を経て芦ノ湖畔「桃源台」まで行き、更に湖畔に沿って箱根町の遊覧船発着場まで約20キロ余りの道程を、5時間程で歩き

通すことが出来ました。

その後も、気力・活力を高めるように心掛け、お茶飲み友達や写真撮影同好の友と楽しい日々を過ごしています。

完

2026年6月1日

ご縁に結ばれた方々

第24期 富川 一男

(一) 令和八年二月二日 八十七歳になった。世間的には堂々たる「超後期高齢者」であるが恥ずかしながら、それ程ではないと思う自分がいる。八十五歳の時、突然歯が二本抜け落ち、道で転んだ。身体の方々にガタが来ており、脳細胞の働きも鈍くなっているが、ありがたいことに日常生活に大きな支障はない。少なくなったが年に十回以上、シャンソンやカンツォーネのコンサートに出て、時にはギヤラを頂ける。元国鉄総裁の石田礼助さんの「年齢は単なるナンバー」という言葉に励まされる。

同期で元同窓会副会長の尾坂富美子さんから要請されたので、学生時代にご縁を頂いた方々についてスケッチしてみたい。相田みつをさんが「その時の出逢いが人生を根底から変えることがある。良き出逢いを」と述べているが、偶然とも言える出逢いがある、縁が結ばれ影響を受け、お世話になった方々には感謝の言葉しかない。

(二) 昭和十四年二月二日、千葉県船橋市に生まれた。家業のお茶屋の三代目になる運命であった。初代の祖父が市川市の奥から出て来て明治三十二年商売を

始めた。二代目を継いだ父は、十九年に武漢で戦病死、母二十九歳、私五歳、妹一歳が残されたが、母が店を続け私達を育ててくれた。

二十年四月、市立船橋小に入学。三年生時に校庭の球技に見とれて教室に戻るのが遅れ叱られたこと、六年生時、学芸会で二人の王様を演じ髭づくりに苦労したこと、毎朝店を掃除してから登校した位しか記憶にない。

二十六年、市立船橋中入学。ここで立石康夫先生に出会う。先生には三年間担任して頂いたが、スシ詰め六十名の生徒一人ひとりに心を配られた。真剣さ、誠実さ、真面目さなどを教えて頂いたと思う。私の字が先生に似てきたと言われる位影響を受けた。

三年生の秋、音楽の斎藤津ね先生から、ラジオ東京（現TBSラジオ）の「こども音楽コンクール」千葉県大会に出るよう言われた。音楽は教室でしか習ったことは無かったが、「荒城の月」を歌い予選通過、八名で競ったラジオ放送で一位になった。審査員の井上芸大教授から声をお褒め頂き、のちに斎藤先生知人の国立音大小山先生の前で歌ったところ、同大への進学を勧められた。もし音楽の道に進んでいたらと妄想することがあるが、これが老後の楽しみに結びつくとは当時思いもしなかった。

家業に熱心だったせいか早熟で「オール生活」（実業之日本社）、「商店界」（誠文堂新光社）、「茶業界」などの月刊誌を愛読し、「中央公論」などもかじった。「オール生活」からは世間知を、商店界からは相手の立場に立つことを学び、母からは「百円のお客様を大切に、仕入先を大事にしなさい」と教わった。

（三）さて、高校進学である。船中では進学者は半

数だったので、直ぐに家業をと考えたが、周りの勧めもあり進学することとした。進学先は商業高校一択、千葉商にするか、都立第三商業にするか。何故三商が候補に上がったのかは定かではない。結局小岩の親類に寄留し、三商を受験、合格できた。船橋から錦糸町まで電車、錦糸町から深川不動まで都電、あと徒歩と片道一時間かかった。

一年生時の担任は関口先生。都の制度でアメリカへの留学を勧められたことを憶えている。当時いっぱしの働き手だったし、簿記を学び帳簿をつけられるようになっていたので、母の苦勞を思い残念ながら辞退した。もし留学していたら別の道が開けたかもしれないと思うことがある。

二、三年生時は、家業を継ぐつもりだったので進学組に入った。担任は東大出、英語の芥田先生だった。玄米食を強く勧められた記憶がある。

三商時代、最も印象に残るのは古暮正雄先生である。日本史と書道を担当された。熱心で明るく芯のある何とも魅力的な先生であった。担任でもないのになぜ可愛がって下さったのか。何か相談事があったてご自宅に伺い「ヴォルガの舟歌」を歌ったことを思い出す。先生からは「歴史は流れをとらえる」「主体性」などを教えて頂いた。「商業高校生は就職後実務ができるもので二、三年は重宝されるが、その後、普通高校卒に抜かれる。教養が乏しいからだ」という言葉が痛切に頭に残る。今はやりの言葉で言えりべラルアーツの重要性というだろう。

三商関連でもうおひとりの出会いが今村直人校長先生である。先生は東京商大（現一橋大）附属商業教員育成所を出られ、三十五歳で熊本商業校長に就任、その後京都、名古屋の商業学校長を経て、昭和十四年に三商の第二代校長に就かれた。それから

十五年間、二十九年迄、戦前戦後の激動期を乗り切つてこられた。その後、商科短大校長、千葉経済短大校長を務められ長寿を全うされた。在校中、先生と接する機会はもちろん無かったが、その聲咳に接する機会は、私が住友海上人事部勤務時に生じた。先生は千葉経済短大生の就職依頼に見えたのである。重厚でスケールの大きな、おらかな方であった。時を経て先生から「目が悪くなり新聞が読めないので世間の状況を教えて欲しい」とのご連絡を頂き、それが名目とわかりつつ何回かご自宅に伺い親しくご指導を賜った。歴任した学校の教え子から、伊藤忠商事、アサヒビール、三菱化成などの社長が輩出したこと、三商着任時かなりの先生を入れ替えたこと、戦後米軍に接収された商船大の米兵用に三商の体育館をダンスホールとして使わせるという要求に抵抗したことなど過去の事実を含め、これからの生き方に参考になる含蓄深いお話を伺った。できるだけ人様のお世話をするようにとも言われた。これは後に述べる安岡正篤先生の教えと共通している。先生のお宅を辞去する際、門前まで送ってこられ、私の姿が見えなくなるまで門前に立っておられた。住友海上時代、社長の使いで住友生命の会長だった新井正明さんを訪問した際、新井さんも足が不自由にも拘わらず、エレベーターホールまで来られ、私がエレベーターに乗るまで見送って下さったことを思い出す。大人物かくあるべしと思った。

（四）三商を出て家業を継ぐ積りだったが、大学で勉強したいという気持ちが出てきた。商売をやりながら八年かけて卒業すれば良いと思った。目指すは商業高校生にとっての最高学府一橋大学である。中学時代、立石先生からさも入学せよとばかり聞か

されていた「一橋商大」である。一回目は二次試験で落ち、商売をしながら後半は予備校に通い二回目で運良く合格できた。受験科目八科目、よく受かったものだ感謝しかない。

国立にある大学の通学には片道二時間かかった。相変わらず半商半学の生活で、今思えば悔やまれるが単位取得のため必要最小限の授業しか取らなかった。一橋独特のゼミは商業学の深見義一教授のゼミに入れて頂いた。メンバーは七名だった。

卒業を控えた四年生の十二月、深見先生に呼ばれ「本当に一生を船橋のお茶屋で終わっていいのか？」と言われた。我に返り就職を志すこととし留年を決心した。深見先生のアドバイスのおかげで一生が変わった。先生には感謝してもきれない。先生が定年退官されたため当時経営学の第一人者であった古川栄一教授ゼミ移り、だいぶ鍛えられた。私の得た結論は、組織メンバー個々の知識、経験、知恵の「相互作用」が要ということであった。

(五) さて、就職先をどうするか。中学時代から読んでいた「オール生活」に記された住友の理念「すなわち浮利を追わず信用を重んずる。人を大切にす。進取の気象を持つ云々」明治時代住友のトップであった伊庭貞剛氏の「君子元より賤を愛す。それを取るに道あり」の言葉にも共感していた。また野村證券発行の「野村週報」に今後の発展事業として損害保険事業が挙げられていた。大学の授業でも興味深く感じた仕事である。そうこうするうちに大学で住友海上諸葛人事部部長（一橋出身、のちの社長）による会社説明会があり、志望を決めた。役員面接の結果採用された。男子、高校卒を含め百名の採用、うち一橋二名、東大四名であった。結局同社

には六十三歳までお世話になることになる。

家業は妹が継ぎ、現在四代目の姪が頑張っている。住友海上（現三井住友海上）退職後は、住友信託村上仁志会長のご紹介により帝京平成大教授を七十歳まで務め、それ以降は冒頭に記したように芸能人の真似事をしている。

(六) 人との出会いは現実のものだけではなく、書物などによるものがある。私にとって、それは西郷隆盛と安岡正篤先生である。

西郷さんとの出会いは本である。大学生当時、店を大改造した。その時棚の奥から見つけたのは明治四十一年発行の「海舟、南州格言百則」、勝海舟と西郷南州の伝記と言葉をまとめた小型本であった。おそらく祖父の愛読書だったのだろう。その中で西郷さんの「人を相手にせず天を相手にせよ。天を相手にして己を尽くし、人を咎めず、我が誠の足らざるを尋ねべし」「命もいらず、名もいらず金もいらずぬ人は、始末に困りもの也。この始末に困る人ならでは艱難を共にし国家の大業は成し得られる也」…。人生に迷っていた私にとって衝撃を受けた。三商時代、古暮先生の「西郷のようになれ」との言葉が蘇った。

もう一人、安岡先生との出会いのきっかけはラジオ放送である。語学の予習で朝五時になってしまい、ふとラジオを点けたら耳をそばだたせる放送が聞こえてきた。「暁の鐘」という番組で講師は日本師友協会会長安岡正篤先生であった。協会に照会したところ毎日一回、先生の講習会があることがわかった。会場は神田の印刷所の木造の二階、それから可能な限り通うことになる。しばらくして先生が歴代首相の相談役であり、政財界人に影響を与えていること

がわかった。「徳が本、才は末」「ものごとは長い目で、根本にさかのぼって、いろいろな方向から考える」など数えきれないご教示を頂いた。実践は難しいが。

(七) これ迄述べてきたように、私にとって人や書物との出会いはかなり偶然の要素が多かった気がする。しかし、翻って考えると人智を超えた何か偉大なもの、天の意思ともいうべきものに導かれている気がする。

先に述べたように高校時代、古暮先生から「智に溺れるな」と言われた。全く同じことを中学時代の恩師立石先生からも言われた。智恵に乏しく、小心で自己肯定感も低い私にとってこのアドバイスの意味は理解できなかった。しかし今迄、自然体で、誠実に現実を大切にして生きてきた積りである。後悔すること多いし、将来、健康、おカネ、…人間関係などの不安もある。そしてAIがどう影響するか。しかし過去は返らないし、将来はわからない。今、この場で最善を尽くすしかないと考えている。どうにかなるだろう。

私の音域はバリトンだが、シャンソン教室に入った二十五年前は「シ」までしか出なかった。それが次第に「ド」「レ」「ミ」が出るようになり今年「ファ」が出るようになった。年齢を重ねても進化すると実感している。これからも技を磨き完成を高めて、聴き手が感動して下さる歌を歌いたい。

我が家には積んである本やCDがかなりある。それらを読んだり聴いたりする楽しみも残っている。

私は毎朝七時頃に起き窓を開け、朝の空気を吸ってから、母校船橋小への通学路五百メートルと小さ

な公園のゴミ拾いを日課にしている。十五年位続けているが、八十年あとの後輩と「おはようございます」と挨拶を交わすことは楽しい。(完)

山岳部の二十四期生

第24期 田中 武

都立三商に、一九五四年(昭和二十九年)四月に入学した。

入学式で、突然「タケシちゃん」と呼ばれて大変驚いた。

幼友達の渡辺良道君だった。私は小学校入学前に疎開したので、九年ぶりの再会だった。

偶然二人は一年二組と同じクラスだった。担任は関口先生。級友は、大変優秀な人が多く、多士済々だった。

私はクラブ活動に山岳部を選んだ。卒業後就職することになっていたので、それまでの間に、知らない土地へ行って、見聞を広めたかったのである。

山岳部へは、一年二組から渡辺君と私を含めて、七人もが入部した。中学時代からの親友も入ってくれた。

新入生歓迎登山は、丹沢水無川本流の沢登りだった。沢登りと言われても、行くまでは見当もつかなかったが、沢を遡行して山頂に至る登山方式だった。沢の途中には、滝がいくつも連なっていた。水しぶきを浴びながら、滝の脇を必死で登った。落下に備えて、先輩が滝の上からザイルで体を確保してくれた。

夏休みは、北アルプスの涸沢や南アルプスで合宿、休みが続くと秩父や中央アルプス、八ヶ岳などを縦



走した。

顧問は若菜先生だったが、生徒の自主性を尊重してくれた。山行計画や準備は、いつも自分たちだけで行った。

合宿ともなると、期間中の献立を決め、必要な食料を調達する準備が大変だった。

いつも山内君の家の倉庫が準備基地になった。ここに必要な食料品を買い集め、参加者の荷物の重量が均等になるように配分した。山内君のお母さんには大変お世話になった。

十日間の合宿ともなると、各人のザックの重さは四十キロ近くなった。一度ザックを下すと、再び背負うのが大変だった。



登山はすべて自己責任である。あらゆるリスクを想定して計画準備した。

危険に遭遇したこともあったが、チームワークで切り抜けた。遭難騒ぎを起こさなかったことを、いまでも誇りに思っている。

山で学んだリスク管理や人間関係などは、その後社会に出てから大変に役立った。

山岳部の登山には、顧問の若菜先生は勿論、数学の小暮先生、英語の福田先生、体育の宮脇先生にも同行して頂いたことがある。

宮脇先生に、重いテントを持って頂いたことがあ



る。先生はレスリングで有名だが、首の鍛錬だと言われて、筒状のテント袋を首にさげて歩かれたので驚いた。

山岳部は校外で活動しているので、認知度が低く、部の予算獲得には苦戦した。

山岳部をPRするために、階段を大きなザックを背負っての上り下りや、人目を引くように、屋上から地上へザイル一本で降下したりした。

運動会のクラブ対抗リレーでは、登山スタイルで参加するパフォーマンスもした。

二十四期で山岳部へ入部した人は、最初は沢山いたが、山が人を選別したようだ。

人は極限まで疲れると、その人の本質がむき出しになる。わがままな人や協調性に欠ける人は、山岳部

を辞めていった。

二十四期生で、最後まで残ったメンバーは、加井賢正、谷口博昭、野沢惣一郎、長谷川寛、三浦敬一、山口健治、山内栄、吉田勇、渡辺良道君と私の十名だった。

長男ばかりだった。同期会の名前は、総領の甚六から取って「甚六会」と命名した。

青春の日々を山で過ごし、苦しさで感動を分かち合ってきた仲間は生涯の友になった。

三商人学から今年で、七十二年目になる。これだけの長期間、親しくしている友人はそんなに多くないだろう。誠に得難い宝だ。

高校を卒業すると、家業を継ぐもの、就職や進学と進路が分かれた。

卒業後も誘い合って山へ行っていたが、やがて結婚し、仕事に追われるようになると、山はいつしか遠い存在になった。

しかし、六十歳の半ばを過ぎると、みんな時間に余裕が出てきた。甚六会の新年会で、

「山には登れないが、山を見に行こう」という話になった。

二〇〇五年の五月に、上高地奥の徳澤へ一泊旅行をした。

二回目は、残雪の中央アルプス千畳敷へ行った。世の中は便利になったものだ。いまはロープウェーが簡単に山頂へ運んでくれる。

三商時代に、重い荷にあえぎながら登った尾根を見下ろして、こんな急斜面をよく登ったものだ、若き日の自分たちに感心した。

下山後、麓の駒ヶ根の町で名物の「ソースかつ丼」を食べた。渡辺君が「とんかつに味がしない」と言った。

変なことを言うなと思った。濃いソースで味付けされていたからである。

「昨夜、飲みすぎたのでは？」

と茶化した、それが病の前兆だった。

帰京後、精密検査で脳腫瘍が発見され、手術したが手遅れだった。「味がしない」と言ってから僅か五か月後にこの世を去った。

それから十二年後に野沢君、そして昨年には三浦君が亡くなった。

「山を見る会」は、コロナの時期を除いて、毎年五月に続けている。

だが山男たちも、さすがに足腰が弱ってきよう。誰かが川柳を作った。

「山男、むかしピッケル、いまは杖」

山岳部二十四期の仲間たちは、今年の四月から満八十八歳を迎えつつある。

折をみて「米寿を祝う会」を合同で開催したいと思っている。

寄稿・エッセイ

快打洗心！4番サード長嶋

第27期 江角 喜一

令和7年6月3日（火）正に昭和100年に当たる昨日午前6時39分ミスター長嶋が逝去された。長い闘病生活と89歳という高齢を考えますと止むなきことと思うけれど、国民すべてに愛された巨星落つを実感した。

私が初めて長嶋茂雄を見たのは、テレビで放映された六大学野球で、立教大学4年の彼が8号本塁打を放って3塁ベースからびよんぴよん跳ねながら本塁ベースに駆け込んだシーンだった。それ以来何の抵抗もなくファンになったのである。以後プロ野球巨人に入団、破竹の活躍は周知の如くである。時代はまさに高度経済成長にまつしぐら、池田隼人内閣の所得倍増計画から田中角栄内閣の列島改造計画へ国民がこぞつてがむしゃらに働いて働いて経済大国に向かって行ったのだ。そんな中で燦然と輝いて欲得に關係なく国民に夢を与えてくれたのがミスタージャイアンツではなかったか。

私個人においても、正に青春まつただ中で、人生いかに生きるべきやと悶々と悩める日々であつたが、長嶋茂雄がホームランを打つと、翌日はスポーツ新聞すべてを買い込んで隅々まで読むでは悦に入っていた。そしてその日は1日中幸せホルモン全開で笑顔が絶えないのである。

さて、本日午前6時頃愛車を飛ばしてローソンで久しぶりにスポーツ新聞すべてを買い込んで、レジに持って行ったら受付の若い女性はぶったまげていた。帰宅して読んでみると数々の追悼の言葉で埋め尽くされていた。やはり多くに人たちが讃美と感謝に溢れていたのだ。

「長嶋茂雄さんは太陽のような人だった。」「長嶋茂雄さんは私にとって尊敬を通り越して崇拜の人だ。」「長嶋茂雄さんは私にとって神様のような人だ。」

僕にとつてもミスター長嶋は神様である。世に乃木大将を祀つて乃木神社あり、東郷元帥を祀つてある東郷神社があるではないか。さればこそ長嶋神社を作るべきと思う。だれか音頭をとつてクラウド

ファンディングで寄付を募ってくれないだろうか。さすれば100億円ぐらいうすぐ集まるよ。それを元手に神奈川県箱根町の箱根神社の近くに土地を買って長嶋茂雄を祀つて長嶋神社を作つてほしい。さすれば年金暮らしの僕でさえ10万円寄付をする用意がある。

息子の一茂曰く『父長嶋茂雄は野球の星に帰りました』。僕も83歳、かぐや姫の如く月の世界からお迎えがくるかもしれない。それもまた楽しみなことである。

さし昇る朝日のごとくさわやかに

持たまほしきは心なりけり（明治天皇御製）



同窓生船橋街歩き開催報告

第29期

仲田 元昭

― 第六回 ―

令和7年10月16日「第6回 同窓生船橋街歩き―歴史散策―」（一組の街歩きを第5回より同窓

生全体に広げる）を、第24期から第31期まで13名のご参加を頂き開催しましたので、ご報告いたします。第27期からは3名もご参加、これも小生と同じ三菱電機㈱に就職した第27期萩尾先輩を令和6年6月27日に船橋をご案内した時、第27期有志の会合（キラケ会・3か月毎開催）でPRしておきましたと、小生所属のチラシを配布して頂いたお陰で、萩尾先輩に感謝しております。

「期別参加者数」

24期…1名、26期…1名、27期…3名、28期…1名、29期…4名、30期…2名、31期…1名 計13名。若いシニアの32期〜47期のご参加は、おりませんでした。次回は是非若いシニア世代のご参加に期待しております。

「申込情報源」

今後の広報活動の参考とすべく、小生の人脈以外の参加申込者7名に申込の情報源をお聞きしたところ、4名は会報、3名は27期同期の情報と会報からの申込でした。

毎月のメールマガジン（同窓会月次電子情報誌）配信数が250名程とお聞きしておりますが、残念ながらHPとメールマガジンからの申込はゼロで、今後の効果的な広報の参考となりました。

「案内状況」

10時JR東船橋駅集合、時間前には全員集合され、自己紹介後スタートしました。

道祖神社、慈雲寺、西福寺、東光寺、船橋大神宮、常磐神社、灯明台、海老川橋、御蔵稻荷神社、船橋御殿跡、森田呉服店・富川園の順にご案内しました。途中了源寺で、普段は境内に入つてのガイドは遠慮していますが、24期富川先輩の菩提寺とのことで、ご住職様にご挨拶させて頂いたうえ、境内を見学す

ることが出来ました。お蔭様で普段見る事が出来ない市の文化財である鐘樓堂や庭園を見学出来、先輩に感謝です。

了源寺をご案内してから小雨が降りだしましたが、船橋を代表する神社「船橋大神宮」のご案内のころから雨がやみ、時間通りにご案内を終えることができました。

小生の行き届かない点も多々あったかと思いますが、皆さんのご協力で無事終えることが出来ました。

「昼食懇親会」

予定通り12時より昼食懇親会を開催、24期富川先輩に開会のご挨拶を賜り、次いで同窓会役員の28期若月先輩の乾杯の音頭で懇親会に入りました。先輩より順に、三商に入学した理由や社会人生活、



宮本台縄文遺跡説明版で

近況等々自己紹介を行い、同窓だからでしょうか初対面とは思えない和気あいあいの雰囲気です。宴は進みました。

途中26期仲田先輩が同窓生全員記載の「三商70周年記念名簿」を回覧、先輩や同期の仲間の当時の勤務先等皆さん拝見し、先輩の大半が大企業でのご活躍を知り、是非購入したいとの話しも飛び出し、伝統ある三商と経済界で活躍の先輩を再認識した場ともなりました。

26期仲田先輩の締めのご挨拶で次回の再会（令和8年4月23日）を約し散会しました。

「編集後記」

今回13名参加で無事開催できたのも、三橋君は受付・集金、森平君は写真撮影と安全誘導を率先してお手



了源寺山門で鐘樓堂のご案内

伝い頂き、同期と同窓生の絆のお陰です。又皆様よりご丁寧なお礼と感想のメールを頂き、感謝しております。一部をご紹介します。

＊ご案内、資料など行き届いたご配慮に厚く御礼申し上げます。小生が不知のことをお聴きし勉強になりました。

＊ご案内・詳細なご説明により、参加された皆さんはさぞ満足されたことでしょう。以外にも船橋は神社・仏閣が多く、歴史を感じられたことを再確認できました。

＊とても分かりやすく楽しかったです。♪ 船橋の歴史が良く分かりました、知らない事ばかりで資料を読み理解を深めました。



灯明台と戦没者慰霊塔のご案内

以上

― 第七回 ―

令和8年4月23日「第7回同窓生船橋街歩き―歴史散策―」を、第24期から第31期まで12名のご参加を頂き開催しました。

「期別参加者数」

24期…1名、26期…1名、27期…1名、28期…1名、29期…7名、31期…1名、計12名。前回参加者9名の他に小生の同期から新たに3名の参加がありました。今回も、若いシニアの32期〜47期のご参加がなく残念でした。

「案内状況」

10時京成海神駅に全員集合され、自己紹介後、次



灯明台前で

のコース順にご案内しました。

(コース予定) 2時間約4km
(出発) 京成海神駅⇩①大覚院(通称…赤門寺)⇩
②入日神社⇩③海神念仏堂(戊辰戦争 市川・船
橋戦争激戦地)⇩④地藏院(船橋小学校の前身用
九小学校跡)⇩⑤歴史の道・東金御成街道(船橋商
業発祥の地)⇩⑥西向き地藏(東金御成街道の起
点)⇩⑦玉川旅館跡(元国登録文化財)⇩⑧船橋尋
常高等小学校跡⇩⑨浄勝寺(家康が船橋で最初に
休憩した場所)⇩⑩明治天皇船橋行在所(明治天皇
が「17」回宿泊・休憩した場所)⇩昼食懇親会場
(解散) 14時頃



大覚院本堂前



大覚院本堂前

今回は幕末から明治の激動の時代の船橋をテーマに戊辰戦争 市川・船橋戦争の海神の戦いを中心に旧市内の西(東京より)にある旧海神村から市内までご案内しました。

当日は昼頃より雨の天気予報で、予報通り昼前から小雨が降りだしましたので、途中「玉川旅館跡」は写真のみでご案内し、その後は予定通りにご案内でき12時に昼食懇親会場に到着しました。

「昼食懇親会」

24期富川先輩の開宴の挨拶後、26期仲田先輩の乾杯の音頭で楽しい懇親会に入りました。

テーブル毎に懇談昼食後、順番に三商時代の思い出や会社生活、第二の人生の過ごし方々々自己紹介を頂き、懇親を深めました。楽しい懇親会もあつ

という間に2時間が過ぎ宴たけなわではありませんが、28期若月先輩の締めのご挨拶で次回の再会を約しお開きとしました。

地元出身の24期富川先輩から、「入日神社、念仏堂は小生未知でしたし、赤門寺が見違えるほどになっていることにも驚きました。お骨折りに御礼申し上げます。」とお礼のメールをいただきました。

数名の方より健康維持と同窓生の親睦を深める良い機会につき、継続開催の希望があり次回も船橋街歩きを企画いたします。

是非新たな同窓生のご参加により交流の輪が更に広がります様、多くの同窓生のご参加を心よりお待ちしております。



大覚院山門前でご案内



開演のご挨拶 24 期富川さん



大覚院山門前でご案内



左より27期久田さん
24期富川さん
28期若月さん



乾杯の音頭 26期仲田さん



懇親会記念撮影

「お知らせ」第8回同窓生船橋街歩き開催」

第29期 仲田 元昭

同窓生の健康維持と交流の輪が広がる一助になればと思い、「同窓生街歩き」を引き続き秋にも開催致します。

三商生の交流を深めませんか、多くの同窓生の皆様のご参加をお待ちしております。

1, 開催日…令和8年10月20日(火曜日)

2, 集合時間・場所…午前10時JR西船橋駅改札前

3, 昼食懇親会会費…3,000円

4, コース予定…約4km、徒歩2時間

(出発) JR西船橋駅→勝間田公園→庚申塔・無線電信所への道標→葛飾神社→薬師如来の庚申塔→宝

成寺→葛羅の井→妙見神社→八坂神社→正延寺→(到着) 京成西船橋より京成船橋駅へ移動し懇親会場へ(JR船橋駅前)「14時頃」解散予定
船橋市観光協会認証の街歩きガイド29期仲田がご案内致します。

5, 申込期限・定員…9月30日(水)、15名

6, 申込先…三商同窓会事務局

電話…03(3643)3392

FAX…03(3643)3396

メールアドレス…info@tcsaa.jp

以上

「我が街 船橋を歩く」
— 私の街歩き人生 —

第29期 仲田 元昭

人生百年時代、第二

の人生の生き甲斐と健

康維持のため、船橋市

観光協会認証の街歩

きガイドになりました。こ

年目になりました。こ

れまでに、市民大学

校、図書館、公民館

からのご依頼や同窓生、

会社同期等々約二千三百

名、三十七コース(東京も含む)

をご案内させて頂

きました。ガイド後のお客様との懇親会での交流も

楽しんでおります。

令和八年正月二日恒例の常磐神社本殿奉納ガイ



家族に説明した本殿の個々の彫刻名を記載した写真を、正月最初の授業(小学校教諭)で紹介したいので撮影してよいですか?と聞かれ、教育の一環として取り上げられるのだと解釈し、感無量な年の初めでした

三月十日には、第二十四期富川先輩のご高配で「如水会(一橋大学同窓会) 船橋支部十四名様」の光栄なご案内の機会も賜りました。(詳細は、同窓生街歩きのご縁(その三)——第二十四期富川先輩との出会い——として寄稿)

さて、三商同窓会のメールマガジンへの「我が街船橋を歩く」の寄稿を継続し、令和八年五月で六年目六十六号となりました。

今年は、令和四年四月〜令和五年三月までに寄稿した十五号〜二十九号の中から選りすぐり、名所旧跡二ヶ所、をご案内致します。

一、大覚院

令和四年十月二十二号で寄稿した、京成電鉄 海神駅より徒歩十分程にある、赤門で有名な真言宗の大覚院で、今年令和八年四月に第七回同窓生街歩きでご案内した寺院です。

「大覚院」

龍王山海蔵寺大覚院といい、以前の西海神村と海神村の境の地にある真言宗豊山派の寺院です。門が赤いので地元では通称「赤門寺」と親しまれています。門前にあった京成のバス停は「赤門前」と称していたようです。

もとは当村の鎮守である、龍神社の別当(江戸時代以前に、神社を管理するために置かれた寺)であり、海上安全を祈る寺であったそうです。

創建は、四百三十九年前前天正十七年(千五百八十九)安土桃山時代と伝えられますが、現在の住職が第



大覚院山門 (赤門)



大覚院本堂



西海神村、海神村と刻まれた地藏尊

三十三代であることから、これより古いとも言われております。本堂には、明治二十六年(千八百九十三年)に作られた本尊の大日如来が安置されています。現在の本堂は、令和元年(二千十九)五月に鉄筋コンクリート造で斬新なデザインに建て替えられたばかりです。以前の本堂は、大正十二年(千九百二十二年)に大改築されています。

「村境が刻まれた地藏尊」

寺の所在は、現在の海神六丁目ですが、旧西海神村と旧船橋海神との境に所在しています。

境内墓地には、道標を兼ねた西海神と刻まれた地藏尊 元禄十七年(千七百四)と海神村とする地藏尊 元禄十一年(千六百九十八)があり、この場所で「西海神村と海神村」の分村の事実を伝えていま

す。

この地は、徳川幕府の御朱印地ではありませんでしたが、豊かな農村であったようです。また戊辰戦争では、近くで戦いがありましたが、戦火は免れました。

二、 龍神社

令和五年一月二十五号で寄稿の神社彫刻が見事な龍神社をご案内します。

龍神社は、船橋市内より西に3km程の旧西海神村の鎮守で、創建時期は不明ですが明治時代以前まで大覚寺が別当を務めていたことから、江戸時代には鎮座していたようです。

御祭神は、大海津見神(おおわたつみのかみ、娑竭

羅龍王)で、海上の安全を祈願する神様です。明治時代には村社に列格、明治四十二年(千八百九十九)に八幡社等三社を合祀したといわれています。

神社のすぐ先が江戸内湾で、沿岸地域では本行徳村から西海神村まで、江戸時代に行徳塩浜があり、明治以降も製塩が行われ豊かな村であったようです。

前の本殿は明治中頃の造営で、昭和三年(千九百二十八)に建て替えられた本殿は総檜造、彫物に技巧をこらした見事な神社彫刻が見所です。境内の池には今でも湧水が絶えず、神社の由緒を偲ばせています。

「本殿羽目板の見事な彫刻」

本殿の羽目板には、見事な彫刻があります。西面羽

目板の「養老乃瀧」図、背面羽目板の「司馬温公襲割り」図、東面羽目板の「神功皇后奉珠」図や脇障子の「天手力男命」「八百万神」「奏樂」など素晴らしい彫刻が見所です。

彫刻は、昭和三年建て替え時に作られ、江戸時代から寺社彫刻で著名な「後藤一派」、二代目後藤直光を名乗る行徳の五代目渋谷茂助の倅、渋谷茂吉の作といわれ、小さな神社ですが、市内でも有数な神社彫刻です。



龍神社 社殿



本殿背面羽目板「司馬温公襲割り」

本殿東面羽目板「神功皇后奉珠」



一、三つ目のご縁の経緯

「第六回同窓生船橋街歩き」（一組の街歩きを第五回より同窓生全体に広げる）を令和七年十月十六日に企画開催し、第二十四期から第三十一期まで十三名ものご参加を頂きホッとしました。

「三つ目のご縁」は、同窓生街歩きでのご縁で第二十四期富川先輩との出会いです。

「二つ目のご縁」は、会報六十二号に寄稿した「第二十九期同期会でのご縁―入社同期の再会と街歩き―」で、長尾君とは二十年振りに再会し、以来会社同期の島村君と三名での街歩きで旧交を温めています。

で話に花を咲かせています。

「二つ目のご縁」は、会報六十一号に寄稿した「第二十九期同期会でのご縁―六十年振りの再会を果たす―」で、小学校以来六十年ぶりに五組の林さんから話しかけられたことがご縁で、クラス会を再開し今年で十二回目（九名参加）となり、その後の思いで話に花を咲かせています。

（はじめに）

同窓会活動への参加でこれまで二つのご縁を会報に寄稿してきましたが、「第六回同窓生船橋街歩き」を企画実行したところ第二十四期富川一男先輩との素晴らしい出会いがありましたので、同窓会活動での三つ目のご縁をご紹介します。

過去の二つのご縁を振り返りますと

第29期 仲田 元昭

「同窓会街歩きでのご縁（その三）」
—第二十四期富川先輩との出会い—

小生の人脈以外の参加申込者七名に情報源をお聞きしたところ第二十四期富川一男先輩（以下先輩と称す）より

「初めまして。富川一男です。メール有難うございました。メルマガで貴記事を興味深く拝読しております。お訊ねの件、会報です。」

私は船橋生まれ、仙台に転勤で二年余り住んだ以外は船橋市本町在住です。実家は本町通りのお茶屋「富川園」で長男の私はサラリーマンになり妹が三代目を継ぎました。これからいろいろお世話になりますがよろしくお願い致します」

と小生寄稿の「我が街船橋を歩く」シリーズを「興味深く拝読しております。」と大変有難いメールを頂き、六年間毎月寄稿を継続してきた甲斐があったと喜びがこみ上げてきました。

その後、先輩と同窓生街歩き開催までに、企画した経緯や自己紹介等々三度程メール交換させて頂き、先輩の激動の時代を生き抜かれた素晴らしい第一の人生（一橋大学卒業後の会社生活と退職後の大学教授生活）と第二の人生（教授生活のあと六十歳前後から続けているシャンソン、カンツォーネの勉強に励みコンサート活動を行っておられ、現在も年



先輩出演のコンサートチラシ
上段右先輩

に十回程度に減らし続けておられます。チラシご参照）を知り、尊敬の念を抱くと共に同じ時計台のある校舎で学んだ小生とは、大違いの先輩の偉大さを感じた次第です。

二、「我が街船橋を歩く」で富川園ご紹介

同窓生船橋街歩きで先輩に初めてお会いしご挨拶しましたが、同窓だからでしょうか何か親しさを感じました。

先輩とのご縁で小生がメルマガジン（同窓会月次情報電子版、登録者約二百五十名の同窓生に毎月メール配信）に毎月寄稿している「我が街船橋を歩く」シリーズへの記事に新たに「東金御成街道」にスポットを当て、昭和三十四年の資料がありましたのでメルマガジン十一月号に「六十 我が街船橋を歩く」に東金御成街道の歴史と老舗富川園をご紹介させて頂きました。

更に東金御成街道を深掘しメルマガジンの記事にすべく、三商生でもあり船橋のガイドとして初めて「商業」にスポットをあて「宿場町から商業発展の変遷」について調査したい旨、先輩にご相談しましたら、いくつかの情報先をご紹介いただきました。また先輩に、明治・大正時代のお話や昔の本町通り商店街等お聞きしたいと取材を申し入れたところ、「船橋駅北口からすぐですので我が家にいらして下さっても結構です」とご快諾を頂きました。

三、先輩宅で取材―船橋の歴史談議―

十二月十六日先輩宅にご招待いただき、奥様ご同席の下船橋の歴史について先輩より種々貴重なお話しをお聞きました。

小生からもこれまで調査した船橋の歴史と手元資

料をお見せし、昭和二年の松井天山が描いた「船橋鳥瞰図」のど真ん中に「富川園」が記載されている絵図をお見せし、船橋の歴史談議に花を咲かせました。

また、以前に情報先としてお教えいただいた「本町通り商店街振興組合事務局」を訪問し、事務局長様よりお聞きした内容のお話ししながら、更に詳しいお話しをお聞きできました。

一番貴重な情報は、船橋市民が知らない市内で初めてのガイドとして貴重な情報（灯明台再建の寄付内容）を頂いたことです。

取材当日、先輩もご同行賜わり富川園を訪問し取材させて頂きました。三代目の先輩の妹さんと四代目の姪御さんが、古い写真や「本町通り商店街五十年記念誌」を準備されており見せて頂きました。

四、「灯明台再建寄付情報の入手」

令和七年十二月取材の為、先輩宅を訪問し、千葉県指定有形民族文化財の灯明台再建の寄付に關し、初めての貴重な情報を入手しました。

取材内容は、メルマガジンの令和八年一月号「六十二 我が街 船橋を歩く―東金御成街道の歴史（三） 商業発展の変遷と灯明台―」で次の通り寄稿しました。

「宿場町から商業の街へと栄えた東金御成街道」江戸時代中期、成田詣での宿通りとして栄えた東金御成街道、幕末には旅籠が二十九軒、本陣一軒、商家が七十軒程と商業の街としても栄えました。

幕末の戊辰戦争市川・船橋戦争で街の大半が焼失しましたが、明治二十七年総武鉄道の開通と共に人口が増え、昭和二年に商店が約九十店舗・昭和

三十四年に百七十三店舗と船橋一の商店街になりました。

その後マンション・複合ビル・商店街が共存する街へと変遷、老舗「富川園」はじめ多くの老舗も営業を続けている商業・漁業・農業・工業四分野がバランスよく発展を続け、人口の増加している街が船橋（六十五万人）です。

「老舗のお茶の富川園」

創業は百三十年前、先輩の祖父様が明治三十二年に市川市国分より船橋に出て創業、お父様が戦死されお母様が二代目、先輩は一橋大学卒業後会社員に、妹様が三代目、姪御さんで四代目です。

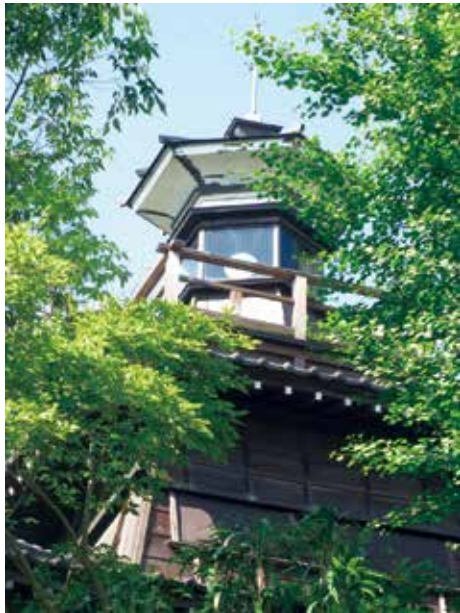
創業当時に、明治天皇は習志野での近衛兵の演習観閲のため「富川園」の近くの櫻屋等で、宿泊十回・休憩五回・小休息二回されております。

先輩は小学校高学年よりお店のお手伝いをされ、三商・大学時代には大口顧客先のヘルスセンターや川端康成も宿泊した三田浜楽園、新京成電鉄本社等に配達されました。

「先輩のお母様の祖父様田中家の大口寄付で再建された灯明台」



昭和2年松井天山の船橋鳥瞰図



地元の寄付で再建された千葉県指定有形民族文化財の灯明台

船橋大神宮の常夜灯は、幕末の戊辰戦争で焼失し明治十三年（千八百八十）に地元の寄付により、当時として最新鋭の灯明台が再建され、政府公認の私設灯台として明治二十八年（千八百九十五）まで利用され、県指定有形民族文化財になりました。

灯明台再建の寄付に関し、「すえ」お母様（大正三年生まれ）がご実家の「祖父の田中家（屋号 長七 大神宮様の裏の旧家で、娘さんの七五三の祝いに十二単を着させていたほど、羽振りが良かったようです。）の時代に当初予定の寄付金が集まらず、田



現在の富川園



奥様の版画年賀状

煙や骨董品等財産を処分し大半を寄付したと語っていた」ことを先輩は記憶しているそうです。この件は新たな情報として蓄積が出来、先輩に感謝いたします。

（取材面談：富川一男氏、三・四代目富川園店主、商店会事務局他）

五、先輩より素敵な年賀状

昨年十月の同窓生街歩きご参加以降、先輩には取材等でお世話になりましたので、小生は世の中の流れに沿って年賀状じまいをしたため、失礼でしたが

メールにて先輩に年賀状を送信しましたが、先輩からはご丁寧な素敵なお手紙の様な年賀状を頂きました。

先輩にお礼のメールを送信したら「我が家の年賀状は結婚以来、家内が版画で作っております。」と、版画と分かりその巧みな彫に驚いた次第です。

このような素晴らしい年賀状をいただけたのも、同窓生街歩きを企画実行したご縁と有難く感じています。

奥様の絵の様な素敵な版画年賀状をご紹介させていただきます。(花は船橋市の花「さざんか」です。)

六、先輩との奇遇

令和八年一月二十日に「着物で初詣」の着付けスクールの先生と着付けボランティアのご婦人方十二名様を、十三年間のガイド人生で初めてご案内しました。

女性ばかりの着物のお客様とのことでガイドにも熱が入り、また道行く人達も変わった街歩きガイド風景に振り返り注目され、気分の良いガイドになりました。

奇遇でしょうか、ガイド途中で第六回同窓生街歩



灯明台・慰霊塔のご案内

きがご縁でご自宅に招待を受け取材させて頂いた先輩と、通りすがりにお会いし会釈させて頂く不思議なご縁が続き、当日先輩より「本日は思いがけなく貴兄のご活躍の様子に遭遇しました。小生の父の月命日は二十日、母は二十二日ですので毎月そのあたりに了源寺にお参りしております。今日はその日だった次第です。」とメールを賜り、ガイド風景を先輩に見て頂き光栄に感じた次第です。

七、如水会船橋支部様からのガイド依頼

昨年十二月に先輩宅を訪問させて頂いた時、先輩より「如水会船橋支部(三代目支部長は先輩)で『ぶらり散歩』をしており、前回岩崎邸を散策した際に船橋を中心にガイドしている後輩がいると、幹事に話しておきましたとのことでした。

新年早々に先輩より「先日少しお話を差し上げましたが、如水会(一橋大の同窓会) 船橋支部有志で年二回『ぶらり散歩』の会合を催しております。幹事に貴兄の話をしたところは是非船橋を歩きたいと言って参りましたので、貴兄と幹事二名そして小生で打ち合わせをさせて頂ければと思います。」とガイド依頼打合せのメールを頂きました。

早々にガイド打合せがあり、一月二十九日に昼食会を兼ね先輩同席の下、如水会船橋支部の幹事様二名とお会いし、小生より具体的に三コースを提案させて頂きました。

ご検討の結果「船橋街中・徳川將軍家と船橋」二時間コース、日程も三月十日開催にしましょうと、打合わせの場でトントン拍子に決まり、先輩よりお話しがあつてから一か月程の短期間で取り纏めて頂きました。

正に日本の経済界でご活躍された皆様の「スピー

ド経営」の実践を垣間見る一カ月でもありました。

新たな視点で船橋の魅力の皆様にご案内すべく、船橋のガイドで初めてとなる「歴史の道・東金御成街道」「船橋商業発祥の地」「徳川將軍家と船橋の関わり」を具体的史実も含め再度ガイド内容を再調査し、当日のカイドに臨みました。

八、如水会船橋支部様船橋街歩き実施

三月十日ご案内当日は、前日の小雨模様の天気予報通り、今にも雨が降りそうな日でしたが十四名様全員が集合時間五分前にはお集まりいただき、先輩からの心温まるご紹介でご案内に入りました。

最初のご案内場所は、船橋一の歩行者の多い交差点(千葉県で最初のスクランブル交差点)で、且つ



写真提供：如水会船橋支部様

先輩の富川園が見える場所で「船橋の交通の要衝」「歴史の道・東金御成街道」「船橋商業発祥の地」である旨、写真・高低差マップ・絵図をお見せしながら、船橋のガイドで初めてのご案内をさせて頂きました。

二番目のご案内場所は、徳川家康が江戸入府の翌年、船橋市内で一番早く一五九一年十一月に家康が休憩された場所、且つ家康より市内唯一、三十石の寺領を賜り創建当時七堂伽藍を備えていた浄勝寺をご案内、四番目の圓藏院のご案内に入ったあたりで小雨が降りだしましたが、それほど気になる雨ではなくご案内を続けました。

七番目先輩のお母様の祖父様が多額の寄付で再建された明治政府公認の官営灯台「灯明台」、そして先輩のお父様と叔父様の名前を含む市内在住の二千名の戦死者（日清、日露、大東亜戦争）のお名前が刻まれた慰霊塔もご案内させて頂きました。

案内場所の中には、小生のガイドに熱が入り長くなった場所もありましたが、皆様熱心にお聞き賜りほぼ時間通りにご案内を終えることが出来ました。

九、小生のガイド人生最高の光栄な一日

ご案内の最後に皆様より拍手を賜り、ガイド冥利に尽きる充実した一日を過ごすことが出来ました。

また、「ご案内終了」後皆様の懇親会にもお招き賜り、先輩より長老（米寿）と先輩の間の上座に座る様に進められ、若輩者の小生にとって光栄に存じた次第です。

懇親の場では、皆様より「家康と船橋がこれほど関係の深かったことを初めて知った」「船橋がこれほど歴史の詰まった街とは、更に船橋が好きになった」等々ガイド内容談義にも花が咲き、先輩の後輩

を思う暖かさ、日本の経済界で素晴らしい活躍をされた皆様をご案内できましたこと、ガイド冥利に尽きると共に小生の街歩き人生最高の一日となりました。

十、お礼と次回のガイド希望に感謝

先輩より早々に「本日はご懇切なご説明と詳細な資料を頂き有難うございました。」

参加者に好評で小生の面目も立ちました。皆さんは知識に飢えているのだと思います。知的な好奇心を満たし、且つ同窓生の親睦にもプラスするという目的を達成できましたことに厚く御礼申し上げます。支部長にも貴兄の活用（失礼）を考えてはと申しておきましたので、今後お世話になると思います。よろしくお願い致します。」

また、如水会船橋支部長様からも

「（前略）・・・非常に分かりやすく、知的好奇心旺盛な支部員も唸るような詳細なご説明で楽しい時間を過ごさせていただきました。今後も第二弾、第三弾と、ご案内いただけるとありがたいと思います。」と先輩のご意向を受けたメールを頂き恐縮しています。

これも先輩の後輩を思うご高配のお陰と感謝申し上げます。

（おわりに）

以上日本の経済界でご活躍された如水会船橋支部の皆様をご案内する光栄な機会を賜り、先輩には感謝申し上げます。

三商の「三」、平安時代より縁起の良いとされる「三」、三つ目のご縁の「三」、会報六十二号で寄稿した「三商祭の誕生」同様に、今回も「三」が三つ

揃った、小生にとっては街歩きガイド人生最高のご縁になりました。

このように短期間で国立一橋大学同窓会（如水会）と都立三商同窓会同士が結びついた事例は大変珍しい出来事ではないでしょうか。

今回も「同窓生街歩き」を企画実行したご縁で、先輩との出会いにより会報寄稿となりました。

このご縁も、同窓会があつての事、同窓会のご協力に心より感謝申し上げます。

シニア世代、特に三十二期～五十期の同窓生の皆さま、人生百年時代また来年は都立三商百周年記念の年でもあり、同窓会活動に積極的に参加され同窓生同士の新たな交流と親睦を深められ、楽しい有意義な第二の人生になりますよう願うと共に、同窓会と母校の更なる発展を祈念申し上げます。

「編集後記」

通常街歩き活動は、コース企画、調査、下見、広報活動（チラシ作成、市の広報新聞掲載手続き等）、資料作成、申込受付、懇親会場設営等々実施までに半年以上の手間がかかりますが、今回は資料作成とガイド以外の手間のかかる部分の取りまとめを一カ月程の短期間で、先輩がマネジメントされた事に改めて感謝しております。

（令和八年五月吉日 第二十九期仲田元昭）



第三十三回東京校歌祭に
初めて参加しての雑感

第29期 仲田 元昭

令和六年十一月のメールマガジンで第十九期細田先輩が校歌祭の参加者が少ないとの記事を拝読し、また令和七年二月の新年会で前山田校長先生（令和七年四月ご転校）より今年（令和七年十月）は生徒五十名、同窓会五十名、計百名の校歌祭にしたいとのご挨拶があり、小生重く受け止めた次第である。

何かお手伝い出来ないかと、一会員として小生の出来る範囲でクラス会参加者と街歩き参加者に参加をと呼び掛けたら小生含め三名の方が既に申込みであった。同時に新年会で名刺交換した役員さんにも会報、メールマガジンで広報済みではあるが、再



「東京校歌祭パンフレット」

度シニア世代の評議員と各期の同期会代表に個別に参加をお願いしてはどうかと提案した。

小生も一度は、校歌祭に参加したいとの思いがあり、恥ずかしながら初めて令和七年十月二十六日杉並公会堂で開催の校歌祭に参加したので、次回参加



先生のピアノ演奏で校歌と応援歌を歌う生徒と同窓生

を考えて頂く同窓生の皆さまのご参考になればと、実施状況と雑感を述べたいと思う。

「令和七年十月開催の第三十三回校歌祭実施状況」

・ 集合場所・時間…JR荻窪駅から徒歩七分ほどの杉並公会堂 十一時半（杉並公会堂入口玄関で三商の旗を持ち同窓会役員さんが出迎え）

・ 参加校…二十一校（商業高校は一商と三商の二校）

・ 開演…十二時十分 三商は四番目でしたので、十二時二十五分に大ホール入口に再集合、十二時四十五分頃三商出場、校歌と応援歌合唱

・ 参加者…二十九名（同窓生二十二名…十九期三名、二十二期一名、二十六期六名、二十八期三名、二十九期二名、三十期一名、三十一期三名、三十九期一名、四十七期一名、四十八期一名）、母校…七名（生徒五名）今回は修学旅行の後のため少ない一校長先生、先生各一名）

・ 反省懇親会…参加希望者のみ（荻窪駅前）…十三時半ごろから約二時間（十四名参加）

・ 交通費…各自負担但し一部寸志として同窓会より支給（三商のみ）

「雑感」

小雨で肌寒い天気であったが、参加者は大先輩の十九期三名（傘寿以上十九名）の参加を含め二十九名と、参加者は例年よりやや少なく参加二十一校の内、母校の参加者は残念ながら少ない方に感じた。

過去に同窓会として「百名参加の目標」があったと聞く（前山田校長先生も令和七年二月の新年会でご挨拶）。盛大な校歌祭になることだろう。若いシニア世代の三十二期から四十八期の参加は三名のみ、若いシニア世代に三十名（各期二名以上）以上の参加を期待したい。

今回は練習なしの本番であったが先生のピアノ演



「校歌と応援歌を歌い終え記念写真」

歌祭行事開催にご尽力賜っている、同窓会役員の皆様にお礼と感謝を申し上げます。

同窓生の皆さま盛大な校歌祭とすべく、是非一度校歌祭に参加され一緒に校歌を歌い青春時代を思い出し、同窓生の交流の輪を広げ有意義な時を過ごしませんか。特に若いシニア世代の三十二期から四十八期のご参加を心より重ねてお願いする次第である。

(寄稿…令和七年十一月三日)

三商生活を振り返って

第31期 南 孝

三商同窓会報を、毎号楽しく読ませて頂いている。投稿された文章は、格式高く洗練された物であり、私の幼稚な文章は、本会報には向かないと敬遠してきた。

しかし、興味をそそる話題が多く掲載され、特に卒業年度別の特集ページでは個々の思い出を語り合ったりして時代の変遷が伝わり素晴らしい企画であり、毎回楽しみに読んでいます。

そこで、学ばせて頂いた三商生活を振り返った駄文であるが、初めて投稿させて頂いた。

私は、第31期卒業生（1964年・昭和39年）で三浦会長と同期である。

自分にとって三商生活は、楽しく、大変有意義であり、己の人生の素晴らしい1ページとして残されている。学ぶ事の大切さは勿論のこと、社会に出てゆく為の多くの基礎知識等を学ばせて頂いた。

又、三商入学前は消極的な生活をしていた己の性格から変えて、積極行動が伴う方向へ転換しながら青

春を謳歌した高校生活を送ることに心がけた。

特に、3年間所属していた英語部（ESS）は、部員数も多く、英語の勉強を必要とする64年東京オリピック開催する前後の年と重なり合って、賑やかで楽しいクラブ活動として大いに盛り上がった。

六日町の山療へ合宿研修として毎年夏に利用していた事も印象に残っている。

夜のキャンプファイヤーは大いに盛り上がった。

又、文化祭には、展示部門と演劇部門として英語劇をこなした。

特に、英語劇の練習で夜遅くまで学校に残ったりもした。

学校の帰り道には仲町の今川焼店で、先輩後輩関係なく、がやがやと大いに学校生活の話題や世間話で盛り上がったものだ。

又、生徒会から役員のお誘いもあったが、クラブ活動が忙しく鄭重にお断りした事もあり申し訳なかったと思う。

筆を進めてゆくと、その当時の思い出が、頭の引き出しから徐々に湧き出てくる。最近、物忘れが激しく探し物をするのは度々あり、つい最近の出来事も忘れて思い出せないことが、しばしばある。特に、名前と顔が一致しなくて、いつも苦労している。困ったことである。

年を重ねる事とは、この現象の哀れかと思う。しかしながら、今から60年前の三商生活の引き出しはまだまだ残されている。

岩田一男先生の「英語に強くなる本」が、1961年発売され、がむしゃらに読んだものだった。

エチオピアのアベベがマラソンで史上初の2連覇達成。

円谷幸吉が銅メダルを獲得した等々話題の多い年

奏で、青春時代を思い出し先輩・後輩・母校の生徒さんと一緒に大声で思い切り歌うことが出来、大変清々しい気持ちで無事終え、達成感を味わうことが出来た。

反省懇親会では、先輩や後輩の皆さまと若き青春時代の思い出や、母校の今後について少し意見交換も出来、充実した有意義な時間を過ごすことが出来た。

その後十九期と二十八期の先輩とは、メール交換も行い新たな同窓生との輪を広げることも出来、校



(64年)であった。

文化祭には、有馬徹とノーチェックバーナーの演奏が開催されたこと。

東海道新幹線の開通もあった。地下鉄東西線も工事中であった。

多くの就職求人先が一流企業で占められ、卒業生には有り難いこともあった。

今では到底、考えられない良き思い出として残されている。

先般は、80歳(傘寿)を記念として、31期同期会が開催された。

久しぶりに会った同期の桜。卒業してから61年経過したが元気な顔をした仲間たちと会う事が出来た。

喜怒哀楽を突進してここまで元気に過ごした仲間達だ。6月には、クラス会がありクラスメイト達と話

題が尽きない。これからも、健康で明るく楽しい生活を送って、お互いに、長生きしたいと思う今日この頃である。

2026年6月20日記載

「ありがとう」は神様の言葉

第27期 江角 喜一

最近、「ああ、楽しかった精神世界」(山平松生著)を読みいささか思うところがありました。書中、工藤房美さんが経験したある奇跡について書かれており、彼女のことの顛末は以下のとおりです。

彼女は熊本私立病院で子宮ガンで余命1ヶ月と宣告されました。ただちに入院し、手術は不可とのことで抗ガン剤治療開始。副作用で頭髮がごっそり抜けハゲて茫然自失。心配した息子はカツラを買ってきて、学校の先生から『生命の暗号』(村上和雄著)を読んでみてと手渡されました。彼女は生死の瀬戸際でしたので必死に読んだ。そして読後感はい下のとおり。

一番驚いたのは、人間のDNAのうち、実際に働いているのは全体のわずか5%程度でその他の部分はよくわかっていない由。それなら、眠っている残りの95%のDNAが目覚ましてオンになったら私の病気も少しは良くなるにちがいない!そう思いついた瞬間、「ばんざーい!」とベッドの上で大きな声で叫んでしまったとのこと。

さて、なにやら能天気を感じるのだが、彼女がどんな行動をやったか!?!……果たして感謝行を始めたのであった。

・まだ病んでいない目、鼻、耳、その他の臓器の細

胞に「これまで私を支えてくれてありがとう」とお礼を言います。

・抜け落ちた髪の毛1本1本にも「ありがとう」と伝えます。

・ガン細胞にも「あなただってこれまで支えてくれたのだから」と感謝を言いました。

この感謝行を彼女はなんと10万回唱えたところ10ヶ月後ガンはすっかり消えていました。主治医も驚いたのは言わずもがな。更にこのことを村上和雄先生に伝えたところ、感謝の絶大な効果については今や世界中の精神科医・脳科学者・心理学者がこぞって研究しているらしい。最近読んだ「感謝脳・Thankfulness」(樺沢紫苑・田代政貴著)に詳しい。感謝に関する科学的証拠を集めて解明に前進している様です。同著によれば、感謝には3つの段階があるという。

第1ステージ「親切への感謝のステージ」第2ステージ「日常への感謝のステージ」第3ステージ「逆境への感謝のステージ」

まず第1ステージでは、「なにかしてもらったら、ありがとう」という「瞬間の感謝」の段階で、ここでの大切なことは、なんとと言っても感謝をハッキリ口に出して伝えることという。

次の第2ステージでは、当たり前前の日常に感謝できること。朝起きることができて、体が動くこと。空気が吸えること。眠れたこと。住む家があること等々……。外側からのものではなくて、「自分の内側から起こる感謝」とも言えます。

最後の第3ステージ「逆境への感謝のステージ」は、何が起きててもありがとう!と言える人は感謝の達人であり、まさに無敵。そして同時に「感謝脳」の完成も意味します。

また、脳科学的研究から興味深い研究が出ているという。すなわち、上記の感謝の段階において多くの場合脳内物質（神経伝達物質）として、セロトニン・オキシトシン・ドーパミンが活性化するという、米国の脳科学者が言及しているとか。更にエンドロヒンは、逆境への感謝脳に対してドーパミンと共に分泌されると最高の効果を発揮されるとのこと。前記の工藤房美さんが経験したある奇跡はこのケースではなからうか。

さて、感謝脳にあかりを点灯し発展させるにはどうすべきか。カルフォルニア大学の心理学者教授ロバート・エモンズ博士は、感謝日記を書くことを提案している。就寝前5分間で簡潔に書くといらしい。

村上和雄教授の『生命の暗号』を僕もじっくりと読んでみた。教授は元気の出るDNAをオンにするには「感動すること」と書いています。更に教授は言う、感動とは大いなる喜びと心地よい興奮が一緒になったものであると。人生の目的は幸福になることと言うがおうも具体性がない。感動することという方が意欲が沸いてくる。いずれにせよ、凡人の僕にとっては、感動のステージを一步一步上げる鈍行列車が似合っていると思われる。

目に見えぬ神のところに通ふこそ

ひとの心の誠なりけれ（明治天皇御製）

〔参考文献〕

1. ああ、楽しかった精神世界（山平松生著・風雲舎刊）
2. 生命の暗号（村上和雄著・サンマーク出版刊）

3. 遺伝子スイッチオンの軌跡（工藤房美著・風雲舎刊）
4. ありがとう100万回の軌跡（工藤房美著・風雲舎刊）
5. 感謝脳（樺沢紫苑／田代政貴著・飛鳥新社刊）



小さなドライブ紀行④ （古河市・ホテル山水）

第27期 江角 喜一

今年の3月に渋沢栄一生涯の家で王将戦が実施され、埼玉県深谷市はかなりフィーバーが思い出されます。これに刺激を受けたのか、古河市は市制20周年の記念事業として将棋名人戦の誘致を決めた由。もとより将棋狂の僕は越谷から車で1時間余と近いので観戦希望したもの叶いませんでした。

10月7日名人戦を追体験することに古河へ観光ドライブに発ちました。午前中はなにかと雑用処理し、12時30分頃発信し4号バイパス經由国道125号に転じJR古河駅に14時頃着く。駅内観光案内所で情

報を得てまずホテル山水訪問す。ここはビジネスホテルながら各種イベントを実施できる古河第一ホテルだ。玄関ロビーには、先般の名人戦対局風景の写真が飾られ、また実施に至るまでの苦労話が茨城新聞・毎日新聞等の切り抜き資料で展示されていた。

夕食前の時間に観光巡りを開始した。篆刻美術館・古河街角美術館そして古河文学館を訪ねた。古河出身の文人の中では、永井路子（1925／大正14（2023／令和5））が特に有名のようだ。直木賞受賞作「炎環」など彼女独自の歴史解釈による作品とのことでした。いちど読んでみたいが……。

さて、将棋名人戦第5局を再現吟味してみよう。令和7年5月29～30日当ホテル2階吉祥の間・特設対局室にて開始した。これまで藤井聡太名人の3連勝の後、挑戦者永瀬拓矢九段が1勝を返したところ。永瀬九段のカド番だが、前局の勝利で気分は乗ってきたに違いない。ただ又しても77手で千日手となり、指し直し局は藤井先手となる。線型は角換腰掛銀で、中盤は永瀬が藤井陣玉頭に猛然と殺到し、永瀬勝ちと思われたが懸命にしのいだ藤井の逆転勝ちとなった。藤井聡太名人の詰将棋解答力は将棋界ナンバーワンで、読みは深さ40手まで、盤面を一見すれば脳内で自然と駒が動いてくれるようなのだ。本局の171手棟梁図（▲4二銀）から逆算すると、31手前の▲3七桂が勝ちへの布石となっており、ついで▲2五桂と飛んで永瀬玉を寄せ切った遠因となったからである。

ところで、本局の大盤解説会は近くの山水はなもプラザで行われたようだが、解説は佐藤伸哉七段が担当し、聴き手は古河市出身の唯一の棋士・宮宗紫野女流二段が勤めたことも付記しておこう。

翌8日は午前中は再び観光、まず古河歴史博物館に入館す。ここでも玄関ロビーには将棋名人戦の対局風景の巨大なパネルが飾られ、この世紀の対局を永く古河市の歴史に残そうとの心意気に感銘した。幕末の古河藩家老・鷹見泉石（1785/天明5（1858/安政5））の記録にも興味深い。鷹見泉石はことさら洋学に関心深く、オランダ商館長フロンホフとは昵懇の間柄であったようだ。それにしても幕末の各藩の知識階級はオランダを通じて西洋知識を多く学び、もはや開国は時間の問題だったよ



うだ。
古河歴史博物館のすぐ側に鷹見泉石記念館があり、また奥原晴湖画室繡水草堂にも無料入館す。南画の女流・奥原晴湖（1837/天保8（1913/大正2））のパンフには東京の奥原画塾には、かの有名な岡倉天心が入門していた記録があ

りびつくりしました。

帰路は国道旧4号の沿線で昼食に肉そばを食し、一路越谷に向かった。

同期会報告

第三十一期同期会報告

第31期 西邨 昭一

昨年11月27日に、上野池之端の「東天紅」におきまして第31期生の同期会を開催致しました。

同期会はコロナの影響で暫らく中断していましたが、「同期会を開いてほしい」との声が上がり、真下章さん、馬場嘉夫さん、辻村ソノエさんらのご尽力により、7年ぶりの開催となりました。

当日は師走も近づく時期のもかわらず穏やかな秋晴れに恵まれ、傘寿を迎えた同期生47名の参加者を得ました。

会は幹事の真下章さんの進行でスタートし、開宴に先立ち同期の物故者の方々に全員で黙祷を捧げた後、馬場嘉夫幹事の乾杯の音頭、高山俊雄さんの開会の挨拶で開宴となりました。

今回の同期会は7年ぶりということもあり、同期生への連絡は一斉にはせず、各々が連絡可能な友人を誘うといったスモール発信での開催ということもあり、参加者がやや少なくなりましたが、各テーブルでは三商時代の思い出話や近況を語り合う話の輪が広がっていました。

歓談の合間に、同期生で同窓会長の三浦康二さんか



ら、令和10年に母校が創立100周年を迎えるにあたり、記念行事が予定されている旨の案内がなされました。

会は終盤を迎え、山岸満男さんの指揮で校歌を。真下章さんのエールで応援歌を全員で声高らかに合唱し、最後に森川正善さんの閉会の挨拶をもって、今回の同期会は終了いたしました。

追伸 第31期同期会は本年も下記のとおり開催が予定されています。

同期生の皆様は是非ご参加ください。

・日時 令和8年11月19日（木） 12時より
・会場 上野「東天紅」

第三十一期 3年2組クラス会報告

第31期 西邨 昭一

去る6月18日に、昨年に引き続き第31期3年2組のクラス会を門前仲町の「東天紅深川店」にて開催いたしました。

当日は梅雨の小雨が降る中、足利市や厚木市、取手市、川越市など遠方からの参加者も含め総勢14名（男性10名、女性4名）の方々が参集しました。因みに、女性参加者3名は他のクラスの方々です。（笑）
会は川井清司幹事の開会挨拶、物故者への献杯の後、各テーブルでは久しぶりに再会した友との賑やかな歓談の輪が広がりました。会の中盤には同窓会



長の三浦康二さんから母校三商の現状報告や公益財団法人東京三商会の活動報告、更に来年に予定されている母校の創立100周年記念行事等の案内がなされました。

その後、恒例となりました得意の「小噺」で高齢者福祉施設等での慰問ボランティア活動をしている太田弘さん（旧姓小林さん）による「小噺」が披露され、暫しの笑タイムで和やかな時間を過ごした後、今回も幹事をされた川井清司さん、馬場嘉夫さんの労に感謝すると共に、来年もクラス会を開催することし、皆元気で再開できることを約束して、約2時間のクラス会を終了しました。

第26期同期会を楽しむ!!

第26期 岩崎 誠三郎

本年は我々8組が幹事となり恒例の同期会

（第35回）を令和8年6月11日（木）に開催しました。事前に数回の幹事会を開催し、ここ数年上野の東天紅で行っていた会場を幹事谷口俊二の提案により懐かしの母校三商の近くにあるスカイビューレストラントウニチに変え会費の軽減も図りました。残念ながら参加者は31名しか集まりませんでしたでしたが楽しい同期会を開くことができました。

当日は私、岩崎誠三郎と中川滝次郎が進行役を行い同期会に先立ち沢山の物故者の仲間のご冥福を祈念し黙祷を行いました。昔の仲間はよいもので話が始めると何年経とうが直ぐ昔に戻り話が尽きることはありません。15時から始めた同期会もつもの話に花が咲きあつという間にお開きの時間となりました。校歌・応援歌の斉唱を行い次回当番幹事（9組）





への引継ぎを終り猪瀬進幹事の閉会の挨拶をもって
終わりました。

三商25期 最後の同期会開催

第25期 諸伏 守

(1) 三商入学・卒業

私たち25期は、昭和30年（1955）4月入学、入学者467名（男子378名、女子89名）、昭和33年（1958）3月卒業、卒業者数470名（男子382名、女子88名）でした。1～4組は男女混成、5～9組は男子のみ、9組は2学年から進学組となりました。

入学して間もなく、先生の、どなたか思い出させませんが、2学年3学期、終了時までに、珠算3級実務検定試験に合格しない者には、就職先を推薦しないぞと、檄を飛ばされたことを、今でも思い出します。昭和30年3月、「金の卵」と言われた中学卒業生が東北地方から、「集団就職列車」第一号で上京しました。戦後10年、日本経済が高度成長期に差し掛かる時期で、東京首都圏の町工場、商店が人手を求め出した時期でもありました。因みに私の住んでいた砂町地区の中学卒業生の半数は地元の企業に就職し、その人たちの中には、夜間の高校へ通う人もかなりおりました。私たちが、昼間の高校へ通うことが出来たことは、大変ありがたいことでした。

(2) 同期会開催の推移

25期・同期会の第1回は、昭和53年（1978）4月に開催され、7組の柴崎晴雄君が代表幹事を務め、出席者は177名でした。以後、5回まで、7組が代表幹事を務め、第6回以降、代表幹事はクラス持ち回りとなりました。最終の第17回は、令和6年（2024）10月に開催され、9組の諸伏守が、

第9回以来、2度目の代表幹事を務めました。出席者は38名でした。

1度目の代表幹事を務めた、平成17年（2005）の第9回では、先ず会場を何処にするか、ということが頭をよぎりました。

代表幹事（9組）として、各クラス幹事から、在学当時の担任の先生に、同期会への出欠如何を問い合わせてもらった結果、3組・岩永達郎先生、5組・中川甲子三郎先生、お二人の先生が出席されるという回答を得ました。中川先生は一橋大学のご出身です。中川先生は「中川先生は一橋大学のご出身です。同期会の会場は神田の如水会館に決めたらどうか」と、思いました。当時、私の俳句仲間の先輩で、毎日新聞に勤めていて、一時期、サンデー毎日の編集長もされていた方が、仕事柄、毎日新聞社の本社に近い如水会館を利用することが多いと聞いていました。その先輩に宴会係の方を紹介していただき、第9回同期会会場を如水会館とすることに決定しました。同期会開催当日、中川先生から「諸伏君も、一橋大学出身なの？」と質問され、「いや、一橋は落ちて、三田の方へ行きました」と返事をしました。「今日はありがとう。会場を如水会館にしてくれて嬉しいよ」と言葉を掛けて頂き、有難く思いました。懐かしき、良き、思い出です。因みに第9回の出席者は112名でした。

(3) 最後の同期会開催までの準備（幹事会開催）
コロナ過は令和5年（2023）中ごろに収束したとみなされ、同期会開催の話もぼちぼち出てきました。

次の第17回の同期会開催担当は、私たち9組と決定していましたので、平成30年（2018）、第15回開催を担当した5組の幹事に、令和5年（2023）末頃、同期会開催の相談を持ち掛けま

した。5組の幹事の一人、近藤茂君とは、1年次、クラスが一緒で、教室の席でも、私が前、彼が後ろと、打ち解けた関係にありました。

令和6年(2024)1月末、5組の幹事4人(近藤茂、梅原明行、神澤和男、桑原久夫君)と会食し、近藤君が、5組は年1回、2回、クラス会を行うほど、まとまっているし、できるだけ多くの人が出席するよう、応援するから、諸伏君も頑張つてよと、背中を押してくれました。

令和6年(2024)5月15日、各クラスの幹事に、錦糸町の「そばの里 みつまさ」に集合して頂きました。(みつまさの主人、河西紀道君は9組)

①25期第17回同期会を最後の同期会とする

②開催日時：令和6年10月17日(木) 12時～14時

③開催場所：東天紅・深川店(赤礼堂深川店ビル5階)

④会 費：8000円

上記、4項目につき、各クラスの幹事の方々に、ご審議いただき、賛同を得て、同期会開催のスタートを切りました。

(4)開催場所について

開催場所をどこにするか、たまたま、令和6年(2024年)2月の三商同窓会の新年会に、誘いを受けた会場が深川・門前仲町の“東天紅”でした。私にとって、初めての飲食店でありました。ここだ！ここを第17回の同期会開催の会場にしようと思いましたが、3年間通った高校生活の思い出の詰まった深川、近くには、深川不動尊、富岡八幡宮、少し足を延ばせば、清澄庭園があり、最後の同期会開催会場に相応しいと思いました。

(5)同期会開催前日まで

①パンフレットの作成

「今回が最後の同期会」ということと、「開催場所は

3年間、学び・遊び親しんで過ごした深川の地・門前仲町であること」を強調した同期会開催案内状を作成、また最後の同期会なので、同期生全員で、何か楽しいひとときを過ごすことは出来ないかと、写真参加を思いつきました。押入れの隅から、古い卒業アルバムを取り出し、ばらしました。

会次第、出席者名簿、校歌、応援歌(通常、同窓会などで配布される資料の定番)の後に歴代校長、担当の諸先生、各クラスの全員およびグループ別写真などを加え、一冊のパンフレット22ページを作成しました。パンフレット三商同窓会報(No.62)三商学校案内(2025)の三点セットを開催日当日、出席者全員に配布致しました。

9月の初め、5組・山辺 茂君の、ご遺族から欠席連絡と、在りし日の元氣な山辺君の写真が同封された手紙が届きました。「父を最後の同期会に出席させてやって下さい。一緒に楽しく過ごさせてやって下さい」と、言葉が綴られ、私と同じ思考の方がいると感慨深いものがありました。同期会当日、手紙と写真を5組の方を中心に回覧させていただきました。

②写真撮影者依頼

同期会当日に配布する会次第の中で、出席者全員写真撮影とあるが、一体全体、誰が撮影するのと、自問自答しました。前述した2024年1月末、5組の幹事と会食した際、梅原明行君が玄人はだしのカメラマンであると聞いていたこと、また、彼からの同期会開催案内状の返信で、お手伝いすることがありましたら、何でも致しますと、書かれていたことを見て、即座に写真撮影をお願いしました。即刻、快諾していただきこんなに嬉しいことはありませんでした。三商在学時代、会話を交わしたこともなく、

前述の2024年1月末の会食が初めての出会いでありました。今回の最後の同期会終了後も、お付き合いさせて頂いており、無上の喜びです。

③学校訪問

9月下旬、昭和33年卒業以来、三商を訪ねたことがなかったので、三商に架電し、訪問、見学希望の旨を伝えると、副校長の加藤由希子先生が電話口に出られ、10月3日午前中の約束をいただきました。当日、同じ9組幹事の安井昭治君と学校に向かいました。保安上、学校見学は一定の予定日が決められていて、私たちの訪問は、最後の同期会開催に免じて、特別に受けて頂いたようで、有難かったです。

2025学校案内を頂戴し、平成26年(2014)4月校庭の南側の運河沿いに、モダンな新校舎等が建設されたこと、私達の時代は男子・女子の比率が8:2、現在の比率は4:6と様変わりしたことなど、概略の説明を受け、授業中の校舎内の一部を案内していただきました。校舎内は明るく、廊下が広く、パソコン教室の広いこと、パソコン台数の多いことについて、改めて、ありがとうございました、とお礼申しあげます。

④車椅子での出席者

9月初め、1組の幹事・直井君より、同組のN君からの「車椅子生活の身ですが、最後の同期会なので、是非、出席したいが、如何でしょうか、雨天の場合は欠席となります」という連絡が入りました。早速、私の方から、N君宅に電話を入れ、奥様に快諾の返事をしました。

⑤出席者への確認

開催日の2～3日前に、出席者の内、30人位の方々

都立三商 第25期 同期会開催一覧表

R6. 10. 17 現在

	開催日	会 場	参加人数	会費 (円)	幹事クラス
第1回	1978. 4. 16 (昭和 53 年)	八 丁 堀 スエヒロ	1 7 7	5,000	7 組
第2回	1982. 4. 18 (昭和 57 年)	デン晴海	9 1	7,000	7 組
第3回	1988. 6. 11 (昭和 63 年)	ライオン 銀座7丁目店	男子9 4 女子4 8	8,000 6,000	7 組
第4回	1992. 11. 14 (平成 4 年)	浅草ROX ニューオータニ	男子8 2 女子2 9	10,000 8,000	7 組
第5回	1995. 11. 18 (平成 7 年)	東 京 駅 ルビーホール	男子7 3 女子3 1	10,000 8,000	7 組
第6回	1998. 11. 14 (平成 10 年)	東 京 駅 ルビーホール	男子8 8 女子2 5	10,000 8,000	5 組
第7回	2001. 10. 13 (平成 13 年)	東 京 駅 ルビーホール	男子7 1 女子2 1	10,000 8,000	4・6 組
第8回	2003. 9. 27 (平成 15 年)	東 京 駅 ルビーホール	男子7 7 女子2 3	10,000 8,000	2 組
第9回	2005. 10. 1 (平成 17 年)	如水会館	男子8 9 女子2 3	10,000 8,000	9 組
第10回	2007. 10. 6 (平成 19 年)	如水会館	男子7 3 女子2 3	10,000 8,000	3 組
第11回	2009. 11. 23 (平成 21 年)	東武ホテル レバント東京	男子7 7 女子2 0	10,000 8,000	8 組
第12回	2012. 3. 4 (平成 24 年)	八 重 洲 富士屋ホテル	男子6 8 女子1 0	7,000	1 組
第13回	2014. 11. 5 (平成 26 年)	東武ホテル レバント東京	男子6 1 女子2 3	8,000	3 組
第14回	2016. 11. 5 (平成 28 年)	東武ホテル レバント東京	男子6 1 女子1 0	8,000	8 組
第15回	2018. 10. 17 (平成 30 年)	東武ホテル レバント東京	男子4 7 女子1 2	8,000	5 組
第16回	2020. 10. 15 (令和 2 年)	東武ホテル レバント東京	男子1 4 女子 1	8,000	7 組
第17回	2024. 10. 17 (令和 6 年)	東天紅 深川店	男子3 4 女子 4	8,000	9 組



に架電し、会場までの交通経路を聞き、間違いなく、門前仲町駅まで来て貰い、地下鉄出口など、アドバイスしました。同期会案内状の表面に、東天紅への案内図を印刷はしておきましたが、私の老婆（爺）心からで、また、出席確認の意味もありました。当日は地下鉄出口と”東天紅”入り口の2か所に、9組の幹事に案内板を持って立つてもらいました。

（6）開催日当日及びその後
当日は晴天。9組幹事は定刻より、早めに集合。車椅子のN君と奥さんは息子さんの運転で来場。出席者が全員着席し、司会の9組・久米原良之君が、会次第に従って、滑らかに進行してくれました。出席者も暫くぶりの再会に、和やかに、会話もはずみ、あつという間の2時間でした。

同期会終了後、数日経って、数名の方々から、お礼状をいただきました。

ありがとうございました。また、2組の出席者で、仲良し3人組の女性陣から、私を労いたいと、食事へのご招待の話をいただきました。私一人では、手持ち無沙汰でしょうから、どなたか一人を、お誘い下さいとのこと、即、5組の梅原明行君に声を掛けました。後日、5人の食事は、話もはずみ、誠に楽しい“ひととき”を過ごさせていただきました。ありがとうございました。



編集 部 より

現在の都立三商校舎の第19代都立三商の校長先生を務められた浦部先生から、校舎改装時の裏話を、同窓会報あてにお送りいただきました。校長先生のお立場ならではのお話と、現在の商業高校を取り巻く状況について、ぜひご覧ください。

（続編もあるようです！）

校長先生うちあけ話

第19代校長 浦部 利明

私は平成24（2012）年4月から平成27（2015）年3月まで、第三商業高校の校長をつとめさせていただきました。その間、頼りない新米校長の私は教職員、地域やPTAの皆様、そして何よりも同窓会の皆様に助けられながら、歴史と伝統を誇る第三商業高校のかじ取りをなんとか行うことができました。今でもその感謝の念を忘れることはありません。そこで、今回はその3年間の様々な出



着任当時の校長室（改修前は1階でした）

来事を同窓会報の紙面をお借りしてご紹介したいと思います。

なお、第三商業高校の校長といえども一介の地方公務員にすぎません。地方公務員法第34条の守秘義務（職務上知り得た秘密は退職後も漏らしてはいけない）を遵守しなければならず（これに違反すると1年以下の拘禁刑です）、お話しできないことも少なくはありませんので、その点はどうぞご容赦ください。また、登場する人物につきましては、不都合がない限り名字のみ、または名字のローマ字インシャルで紹介させていただきます。職名や役職も当時のままです。

その1 校舎の改修・改築が待っていた！

平成24（2012）年3月、同じ江東区内の都立大江戸高校の副校長であった私は、東京都教育委員会人事部から東京都立第三商業高等学校長の内示を受けました。そこで、4月の着任前に前任者から引継ぎを行う必要があるので、3月27日に第三商業高校を訪問したところ、当時の天野校長先生から今年の夏休みに校舎の改修・改築が始まる、そのためにグラウンドに仮設校舎（プレハブ校舎）を建てて引っ越すことになるという話を初めて聞きました。まさ



仮設校舎の校長室、あまりにも狭いので呆然としています



改築のため取り壊された実習棟の新たな基礎工事

に青天の霹靂とはこのことです。ちなみに、校舎の改修は簡単に言えばリフォーム、改築は古い校舎を取り壊して新しい校舎を新築することです。今回は教室棟と体育館棟が改修、実習棟が改築でした。都立高校の鉄筋コンクリート造り校舎といえども耐用年数は50年前後ですから、50年に1回の大変めでたい大仕事に当たってしまったという訳です。それに工期は約1年8カ月、その間はグラウンド、体育館やプールは使用できず近隣の東京海洋大学の体育館やグラウンド、江東区の公共施設を利用するとのことでした。今さらそんな学校の校長なんか嫌だと言う訳にもいかず、立派な人柄の天野校長先生から懇

切に慰められても、また4月から私とタグを組む萩谷副校長先生に力強く励まされても、結局は頭を抱えながら深夜に帰宅したことを今でもよく覚えています。

さて、4月2日に着任すると、すでに頭の中は引越しまどです。自宅の新築や引越しの経験から、まず不要物品の処分・廃棄が最優先と考えました。職員会議で先生方にこのことを伝えても、実際には目の前の生徒の授業や部活動の指導が優先であり、校舎の引越しまどは後回しという空気が伝わってきました。そこで、ここは校長として率先垂範を示すべきだと思いつき、これ見よがしに校長室の古い調度品や飾ってあるだけの書籍の処分を開始しました。校長室のロッカーや引出しからは、歴代の校長先生方が捨てられずに残っていた思い出の品々が次から次へと現れましたが、心を鬼にして処分しました。この時は用務主事の五代さんに大変お世話になりました。

当時の校舎からグラウンドの仮設校舎に引越すとはいつても、床面積が約60%に減ってしまうという難題が待っていました。4LDKの自宅から2LDKに引越すようなものです。そこで、校舎内の物品については、①当面必要な物は現校舎から仮設校舎へ引越しまどし業者に運んでもらう、②不用品として廃棄処分する、③改修・改築の工事が終わるまで民間倉庫で保管する（その間使用しないプールのコースロープや体育館の備品など）の3種類に分類し、夏休みの引越しまどしに備えました。ただし、どこからか出てきたドラムセットなど、まだまだ使用できそうな不用品についてはしばらく校舎内に展示し、希望する他校に引き取ってもらいました。特に

第三商業高校の旧教職員の方々には、懐かしい物だからと言って引き取ってもらい、その後は他校で大切に使用していただいたようです。



仮設校舎の教職員玄関

いよいよ夏休みも終わりに近づいた8月20日から、引越が始まりました。東京都立学校の引越しなので、会社のロゴマークが動物や鳥、昆虫などのテレビCMでも有名な大手引越業者が来てくれるのだろうと期待していたら、来校したのは未知の引越業者でした。責任者に聞いてみたら、もともと物流業者であったが今回初めて引越業に参入することでした。そこで心配になつて経営企画室の市原室長に大丈夫なのかと相談したところ、都の入札により決まった業者なので（つまり安価で入札した）、今さら仕方がないでしょうと言われてしまいました。

しかし嫌な予感はずぐ的中しました。集まった作業員の皆さんは、責任者以外はみんなアルバイトで、引越作業の未経験者ばかりです。まず、校舎4階の同窓会室に保管してあった、旧校舎の時計台の大きな文字盤（ガラス製）を壊されてしまいました。もともと斜めに立てかけてあった文字盤を持ち上げようとしたときに粉々に割れてしまったとの

ことです。おそらく劣化が進んでいたのだと思いますが、責任者は平謝りで、本社に破片を持ち帰って復元すると約束しました。しかし、その辺は鷹揚で気風がいい当時の岩瀬同窓会長が「そんなのいいわよ」と許してくださり（しかし口調は大変厳しかった）、その責任者も心から恐縮して詫言っていました。この時ばかりは、未熟な私も寛容な精神の大切さを学ばせてもらいました。

次に、真夏のクーラーの無い環境での引越作業ですから、何人もの経験の浅い作業員が熱中症になりかけ、保健室に運ばれました。本来であれば生徒のための保健室ですが、この時ばかりは養護教諭のK先生も仕方がない業者だと突つて対応したと後から聞きました。さらに困ったことは、引越作業が順調に進まず、予定していた8月24日には完了せず、翌週の29日までずれ込んでしまいました。5日間の予定が、8日間に伸びてしまったわけです。責任者の方はまたも申し訳ないの連発ですが、終わらないものは仕方がないし、また追加料金も発生しないので作業の完了を待つしかありませんでした。その間は作業員の日当もかさむので、結果として業者は赤字だったと聞いています。

そうした中で大変うれしかったことは、引越は業者に任せるので先生方は手出しする必要はないと言われながら、懸命に働いてくれた先生方がいたことです。机や椅子、ロッカーやダンボール箱の運搬の際には、〇〇室↓〇〇室という大きなラベルを張って部屋を指定しましたが、その部屋の中のどの位置に置くのかまでは指示してありませんでした。そこで商業科のS先生がわざわざ出勤し、クーラーが稼働する前の猛暑の仮設校舎で、汗を流しながら緑色の養生テープを切つて床に十字に貼り、業者の

作業員に置き場所を指示してくれました。あの職員室での暑い日の光景を思い出すと、本当にありがたかったです。

今回の引越の大騒動から、教職員は学校の校舎や施設を自分の自宅だと自覚しなければならぬことを教訓として学びました。引越しが終わって新学期初日の9月1日を迎えると、国語科のM先生が校長室に慌てて駆け込んできました。仮設校舎の新しい国語科準備室が、なんと階段下の窓もクーラーもない物置のような部屋だったことでした。おそらく1年以上前に仮設校舎の部屋割りを決めたと



クラス写真の背景にある仮設校舎

きに、引越しの際にはもう自分は他校に異動して
いないからと無責任に考えた教職員がいたのだと思
います。すぐに経営企画室の市原室長に相談したと
ころ、薄暗い階段下の物置と経営企画室の倉庫（立
派な窓がある）を交換し、さらに用務主事の五代さ
んに豊洲のホームセンターで窓枠に取り付けるエア
コンを買ってきて設置してもらい、その日のうちに
無事解決しました。自宅の引越では絶対にはあり
得ないことです。学校とはいえ、自分の自宅だと思っ
て施設・設備を人念に管理する姿勢は、次の赴任先
の高校で非常に役に立ちました。（その2 募集対
策が大変だ！）につづく）

都立第一商業高校の 改編について

都立三商同窓会事務局より

今年の5月28日、東京都教育委員会は第一商業高
校の改編について発表し、すでにこのことは新聞報
道等により伝えられています。骨子は次のとおりで
す。

① 2028年度に、国際金融を体系的に学ぶ「グ
ローバル・ファイナンスコース（仮称）」と、国際
的な視野と探究的な学びを体系的に育成する「国際
バカロレアコース（仮称）」を新設する。

② このことに伴い、現在のビジネス科（商業
科）は2027年度入学者を最後に募集を停止し、
2028年度にビジネス科（商業科）から普通科
に改編する。

この改編の背景には、経済活動のグローバル化が
一層進展することにより、ビジネスパーソンに求め

られる資質や役割も変容したことから、商業教育の
在り方についての確な対応が求められていることが
あります。まさに商業教育は大きな転換期を迎えて
います。そこで、金融の仕組みを国際的な視点から
理解するなど国際金融を体系的に学ぶために、既存
の商業高校を新たな商業教育の価値を創出するフ
ラッグシップ校（旗艦校）として改編することと、
あわせて、国際的な視野と探究的な学びを体系的に
育成する観点から、国際バカロレア教育を実施する
コースを併置することになりました。このことは、
『東京都立第一商業高等学校の改編に関する基本計



昭和 50 年代の第一商業高校



現在の正門

画（案）』（令和8年5月東京都教育委員会）に記
されています（東京都教育委員会のホームページで
閲覧、ダウンロードができます）。

そうした中で気になるのが、先述の②にあるビジ
ネス科（商業科）の募集停止と、ビジネス科（商業
科）から普通科への改編です。誰もが慣れ親しんで
きた「第一商業高校」の校名から商業の文字が消え
てしまう可能性があり、一部の報道では新たな校名
も今後検討するという情報もあります。同じ商業高
校の関係者として、その動向には目を離すことがで
きません。

さて、来年の秋には第三商業高校も創立100周
年を迎えます。「不易と流行」という言葉がありま
すが、第三商業高校でも100年にわたって続いた

東京三商会から

伝統や校風などの本質を易^かえず、グローバル経済に対応した新たな商業教育の価値という流行を取り入れ、ますます発展してほしいと切に願います。そのためには、新しい商業教育のフラッグシップ校（旗艦校）となる今後の第一商業高校から多くのことを吸収させていただくとともに、その改編の成功を心から期待したいと思います。



一商校門プレート

第三商業高校の 第1回海外交流プログラム （カナダ バンクーバー）について

母校の東京都立第三商業高校はグローバル人材育成の一環として、三商生の国際性を養うために海外交流プログラムを開始しました。そこで、公益財団法人東京三商会は新たに奨励奨学金事業を設け、これを支援しています。こうした高校時代の異文化体験や語学研修が契機となり、自らすすんで積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度や豊かな国際感覚を身に付けるなど、三商生が社会有為な人材として成長することを期待しています。

今回は2年生10名がカナダのバンクーバーに滞在



し、コーナーストーン・インターナショナル・コミュニケーション・カレッジで英語研修を受講しました。
令和7年5月13日（火）

奨励奨学金の給付対象となった生徒に対し、東京三商会杉本理事長から第三商業高校の校長室で一人一人に決定通知書を手渡しました（集合写真の杉本理事長の右隣が智片校長先生です）。

8月3日（日）

羽田空港第三ターミナルで出発に際し、東京三商会を代表して尾坂理事より挨拶がありました。その後、羽田空港を出発し、現地時間の14:50にバンクーバー空港に到着し、入国審査ののちホームステイ先（生徒は2名ずつ、5家庭にホームステイ）に向かいました。



8月4日(月)

この日から、研修先のコーナーストーン・インターナショナル・コミュニティカレッジで授業が始まりました。

8月5日(火)

午前はゲームやアクティビティを取り入れた語学の授業、午後は海外からの留学生との交流を行いました。



8月6日(水)

午前は語学の授業、午後はカナダ留学中の日本人の専門学生との交流を行いました。

8月7日(木)

午前は語学の授業、午後はグランビルアイランドを訪れました。



8月8日(金)

午前は最後の語学の研修を受け、午後は修了式を行いました。集合写真の後列左端は、授業を担当していただいたシェリー先生です。



8月9日(土)

ホストファミリーとピクニックやパーティー、BBQなどで過ごしました。写真は、ホームステイ先の朝食です。

8月10日(日)

ホストファミリーに別れを告げバンクーバー空港か

ら羽田空港に向けて出発しました。

8月11日（月）

19...00、羽田空港に到着、参加生徒は家族や教職員に迎えられました。

9月20日（土）

三商会館で報告会が開催され、東京三商会の理事や監事、三商同窓会の皆さんが出席する中、参加生徒からはスライドを用いたプレゼンテーションがあり、高校生らしい異文化体験の新鮮な驚きや、これからの語学学習への意気込みが伝わってきました。



編集部より

次号のお知らせ

次号も引き続き、三期合同特集号を組んで参ります。

65号は第二十六期、第二十七期、第二十八期の特集号となります。

皆さんの幼少期の話、三商生現役時代の話、卒業後の進路や社会人時代、近年のご活躍など、または自身の状況に限らず、日々思われている雑感などで

も結構です。

ご寄稿の方法は後述いたしますので、ぜひ多くの方からのお話をお聞かせください。

次号合同特集!!

第26期 第27期 第28期

同窓会ご寄付のお願い

昭和三年（1928年）我が母校が開校し、まもなく百周年を迎えます。

来年の十一月には、盛大に記念式典が開催される予定となっております。

十年ごと母校の創立記念の節目には、同窓会としても、人的協力と毎年積み立てている周年記念事業費で母校のハレの日を支えてまいりました。

今回、大きな節目となる百周年記念事業を成功させるべく、積み立てた周年記念事業費に加え、三商同窓生の皆様の厚いご支援を賜りたく、ご寄付をお願いいたします。

同封の振込用紙（赤い用紙）とご寄付の方法を記した説明文をご覧ください。

※ 記念式典などの詳細につきましては、次号65号（令和九年八月発行予定）にてご案内いたします。

会 報 原 稿 募 集

同窓会報65号の皆様からの原稿を募集します。

より多くの方のお声を聞かせていただきたく左記の要綱でお気軽にお送りください。

【入稿形態】

- ① 手書き原稿 原稿用紙等に書かれたもの
 - ② 活字原稿 パソコン等で印字されたもの
 - ③ データ原稿 パソコンで打ち込まれたデータ
- ①と②については、郵送及びFAXにて三商同窓会事務局にお送りください。

③のデータはメールまたは記録媒体（USBメモリ、CD等）の郵送でお願いいたします。
郵送先、FAX番号は下記奥付をご覧ください。

メールアドレス…info@tc saa.jp

【原稿締め切り】

① 手書き原稿

令和九年五月末日まで

② 活字原稿 ③ データ原稿

令和九年六月末日まで

【写真について】

記事内に差し込まれる写真（絵）の形態

① 写真現物（印画紙プリント）

② 原稿内に文章とともにプリント

③ 画像データ

①と②は、編集部にてスキヤニング（画像を機械で読み込み、データ化する）を行います。

上質紙等（コピー用紙）にプリントされたものは、元の画像が荒いため、会報掲載時の画質が荒くなりますのでご了承ください。

データでいただく場合は、解像度350dpi 高さ81ミリ以上が理想ですが、それ以下でも当方で調節します。

【原稿内容】

① 同期会（クラス会、有志の会合）開催報告

② エッセイ・寄稿文

②の内容は特に決まりがありませんが、同窓会報としてふさわしくないと判断された場合、掲載を見送る場合があります。

【原稿類のご返却】

写真現物及び記録媒体でのご入稿物は全て編集後、ご返却いたします。

手書き、プリント原稿の場合、ご返却希望の方は、その旨を原稿とともにご記入ください。

いずれのご返却に關しまして、ご返却先ご住所ご氏名を忘れずにお書き添えください。

【その他】

数字の表記は、漢数字そのまま、アラビア数字は二桁のみ横書きに変換します。

頂いた原稿内容は、極力変更せず掲載いたしますが、明らかな誤植、単語の誤用などがある場合、編集部で修正させていただきます。

三商同窓会報第六十四号

令和8年8月1日発行

発行者

都立第三商業高等学校同窓会

発行責任者

都立第三商業高等学校同窓会 広報委員会

編集者

〒135-0046

東京都江東区牡丹1の12の8 三商会館4階

都立第三商業高等学校同窓会事務局

杉本 光男

電話 03（3643）3392

ファクシミリ 03（3643）3396

印刷所

オフィス岩瀬

活 動 記 録 (7年度)

No. 1

日付	曜日	摘 要	備考
7/4	8 火	入学式	
4	16 水	会計監査	三商会館
4	19 土	理事会	三商会館
		1 令和6年度 事業報告、会計報告の承認の件	
		2 令和7年度 事業計画、予算案承認の件	
		3 役員改選の件	
		4 新年会の報告	
		5 「三商同窓会報」63号発行について	
		6 第33回「東京校歌祭」について	
		7 「同窓生の集い」について	
		8 ホームページについて	
		9 東京三商会の現況報告	
		10 その他	
4	26 土	東京校歌祭振興会 総会	小山台会館
5	24 土	定時評議委員会	三商 大会議室
		1 令和6年度 事業報告承認の件	
		2 令和6年度会計報告及び監査報告承認の件	
		3 令和7年度事業計画案承認の件	
		4 令和7年度予算案承認の件	
		5 役員改選の件	
		その他持寄りの議題	
6	6 金	三商学校運営連絡協議会	三商 大会議室
6	15 日	東京校歌祭実行委員会	小山台会館
8	7 木	三商100周年実行委員会	三商 校長室
8	30 土	東京校歌祭実行委員会	小山台会館
10	26 土	第33回東京校歌祭	杉並公会堂
11	28 木	三商学校運営連絡協議会	三商大会議室

令和7年度 会 計 報 告

自 令和 7年 4月 1日
至 令和 8年 3月31日現在 (単位 円)

項 目	予 算 額 (A)	執 行 額 (B)	差額(B-A)/(A-B)	備 考
前年度繰越	4,030,055	4,030,055	0	
(収入の部)				
会費(93期)	1,400,000	1,369,120	△ 30,880	卒業生137名
運営協賛金	20,000	10,000	△ 10,000	
事業収入	470,000	318,000	△ 152,000	
寄付金	0	343,534	343,534	
利息他	60	4,371	4,311	
収入合計	1,890,060	2,045,025	△ 154,965	
[支出の部]				
理事・評議員会	100,000	74,146	25,854	
総会(同窓生の集い)	0	0	0	
新年会	375,000	249,200	125,800	
校歌祭	240,000	192,220	47,780	
同窓会報	600,000	497,970	102,030	
ホームページ	100,000	99,000	1,000	
活性化活動費	50,000	0	50,000	
母校部活支援	200,000	199,140	860	
就職活動支援	150,000	143,391	6,609	
母校支援	200,000	445,050	△ 245,050	
会合費	20,000	0	20,000	
慶弔費	30,000	0	30,000	
通信費	300,000	346,543	△ 46,543	
事務・消耗品費	25,000	0	25,000	
雑費	10,000	0	10,000	
東京三商会	10,000	10,000	0	
特別会計予算	200,000	200,000	0	
支出合計	2,610,000	2,456,660	153,340	
次年度繰越	3,310,115	3,618,420	308,305	
(事業収入内訳)				
1 新年会会費	160,000	140,000		
2 「三商同窓会報」広告収入	200,000	133,000		
3 同窓生の集い会費	0	0		
4 校歌祭反省会会費	90,000	45,000		
5 その他雑務収入	20,000	0		
合 計	470,000	318,000		

特別会計(周年記念事業)

上記のとおりご報告申し上げます。
令和8年4月7日

前年度繰越 2,004,266

会 計 渡 邊 秀 明

一般会計(93期) 200,000
受取利息 2,592
収入合計 202,592

監査の結果正確である事を認めます。
令和8年4月7日

監 事 古 田 勝 一

差引次年度繰越 2,206,858

監 事 三 川 廣 志

令和8年度 事業計画案

- 三商創立100周年記念事業準備
- 母校支援については例年通りとする。

1 定時評議員会

令和8年5月23日(土) 三商大会議室

2 「三商同窓会報」64号の発刊

投稿締切 令和8年5月末日(厳守) 発行 令和7年7月1日予定
今回も広告をたくさん募集する

3 第34回東京校歌祭への参加

日時 令和8年10月18(日)
会場 杉並公会堂

4 同窓生の集い 創立100周年を控えて

5 新年会

日時 令和8年2月 未定
場所 未定

6 活性化活動

若い世代の同期会開催の手助けをする。

7 支援活動

母校支援(部活動支援、就職活動支援、その他)

8 創立100周年記念事業準備

令和8年度 収 支 予 算 (案)

自 令和8年4月 1日
至 令和9年3月31日 (単位 円)

項 目	7年度予算額	7年度執行額	項 目	8年度予算額	備 考
前年度繰越	4,030,055	4,030,055	前年度繰越	3,618,420	
(収入の部)			(収入の部)		
会費(93期)	1,400,000	1,369,120	会費(94期)	1,450,000	145名
運営協賛金	20,000	10,000	運営協賛金	20,000	
事業収入	470,000	318,000	事業収入	490,000	
寄付金	0	343,534	寄付金	100,000	
利息他	60	4,371	利息他	60	
収入合計	1,890,060	2,045,025	収入合計	2,060,060	
(支出の部)			(支出の部)		
理事・評議員会	100,000	74,146	理事・評議員会	100,000	
総会(同窓生の集い)	0	0	総会(同窓生の集い)	0	
新年会	375,000	249,200	新年会	375,000	@7,500- 50名
校歌祭	240,000	192,220	校歌祭	240,000	*
同窓会報	600,000	497,970	同窓会報	500,000	
ホームページ	100,000	99,000	ホームページ	100,000	
活性化活動費	50,000	0	活性化活動費	50,000	
母校部活支援	200,000	199,140	母校部活支援	200,000	
就職活動支援	150,000	143,391	就職活動支援	150,000	
母校支援	200,000	445,050	母校支援	200,000	
会合費	20,000	0	会合費	20,000	
慶弔費	30,000	0	慶弔費	30,000	
通信費	300,000	346,543	通信費	300,000	
事務・消耗品費	25,000	0	事務・消耗品費	25,000	
雑費	10,000	0	雑費	10,000	
東京三商会	10,000	10,000	東京三商会	10,000	
特別会計予算	200,000	200,000	特別会計予算	200,000	
支出合計	2,610,000	2,456,660	支出合計	2,510,000	
次年度繰越	3,310,115	3,618,420	次年度繰越	3,168,480	

(校歌祭予算)

参加費・広告費

60,000

交通費OB、現役他

80,000

反省会費用20名*5000

100,000

計

240,000

(事業収入明細)

① 新年会会費 ￥5,000- 40名

200,000

② 三商同窓会報広告収入

150,000

③ 同窓生の集い会費

0

④ 校歌祭反省会会費 ￥4,000- 30名

120,000

⑤ その他雑務収入

20,000

合 計

490,000

令和7年度特別会計(周年記念事業)

前年度繰越 2,004,266

一般会計(93期会費) 200,000

受取利息 2,592

収入合計 202,592

支出合計 0

差引次年度繰越 2,206,858

令和8年度特別会計(周年記念事業) (案)

前年度繰越 2,206,858

一般会計(94期会費) 200,000

受取利息 1,700

収入合計 201,700

支出合計 0

差引次年度繰越 2,408,558

(第21期) 平林 慶雄

有限会社 平林油店

灯油・軽油・潤滑油・配達いたします
油の事ならご相談ください。

本店・自宅 (03)3644-4487
江東区南砂4-19-13

南 砂 S S (03)3644-6161
江東区南砂3-4-5

総合印刷プランナー

Print & Bind's Solution

Office
iwase

印刷の事なら何でもご相談ください

企画・デザイン⇒印刷・製本⇒納品・発送代行

オフィス岩瀬

第49期 岩瀬 茂幸

TEL/FAX: 03 (3877) 9520

E-mail: s_iwase@kvf.biglobe.ne.jp

新宿区医師会パソコンサポート

オフィスコンピュータサービス株式会社

代表取締役 佐々木 源基 (27期)

〒101-0025
東京都千代田区神田佐久間町3-21-7
吉村ビル 4階

電話 03-3866-3570
E-Mail: genki@ofukon.com

文京区湯島3-8-1
03(3833)4529
※社会情勢により変更あり

SAIKOU
ますだ

とんかつ 串揚げ

かつ進

神田録倉橋店 03-3256-2984
外神田店 03-3232-2981

26期 増田進一郎

31期 増田トシ子

Woody Art
HOSODA

細田木材工業株式会社

顧問
細田安治 (19期)

〒136-0082
東京都江東区新木場 2-5-3
☎03-3521-8701
fax03-3521-8708
e-mail: yasuji@woody-art-hosoda.co.jp
http://www.woody-art-hosoda.co.jp/

合法木材供給
事業者認定
[輸入協-037]

ASR ANAB
ISO9001

健康経営優良法人
2020

代表
大石 傑一郎

(23期珠算部々長)

リサイクルショップ
てるてるぼうず

曳舟本店 〒131-0032
東京都墨田区東向島 2-14-1
メゾンド大石1階
☎ 03 (3616) 2439 (代)

自 宅 〒111-0051
東京都台東区蔵前 4-28-5
蔵前大石ビル4階
☎ 03 (3861) 0084

おしゃれエプロンメーカー

有限会社 篠 崎

取締役会長 篠崎 清 (第22期)

〒272-0021 市川市八幡4-17-33

TEL047-334-5027 Fax047-334-5432

Sugimotokouji

株式会社 杉本好二商店

代表取締役 杉 本 眞 一

〒130-0002 東京都墨田区業平1-17-5
TEL 03-3623-2185
FAX 03-3623-1859

砂 利 ・ 砂 ・ セ メ ン ト ・ 砕 石
生コンクリート・アスファルト 販売店



街と住まいと
お客さまをつなぐ

不動産のことならご相談ください
住宅・事業用など
トータルサポート致します

【当社開発事例 イメージパース】
新築分譲住宅
大雄開発『クリエーションシリーズ』

(公社)東京都宅地建物取引業協会会員 東京都知事免許(14)第26577号

 **大雄開発株式会社**

代表取締役会長 松岡雄治(第26期)

〒136-0072 東京都江東区大島1-29-6 アプローズ西大島101

TEL:5628-1511 FAX:3636-2292



物件情報満載HP

売買情報 <http://www.daiyukk.co.jp> 賃貸情報 <http://www.daiyukk.com>

『新着物件情報』・『オープンハウス情報』など掲載中です!!

28 期 大野眞言著書

著 者 大野眞言
〒811-3221 福岡県福津市若木台 5-17-1
Tel.0940-43-1743



発行元 權歌書房 ※現在休業状態ネット販売のみ
重要参考資料入手元 ネットワーク『地球村』高木善之代表
日本有機農業研究会(種苗部会)

番号印刷専門 昭和13年1月1日開業

スドウナンバー

31 期 須藤 義勝

〒104-0043 東京都中央区湊 2-3-3

Tel.03-3551-9078 Fax.03-3553-8486

三商同窓会 総務委員

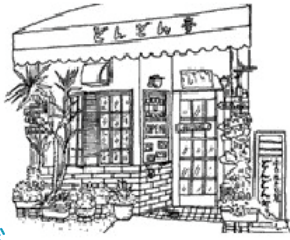
22 期	篠崎 清	26 期	岩瀬 和子
26 期	古田 勝一	28 期	吉沢 靖子
28 期	若月 健司	29 期	土方 敏之
30 期	藤倉 久男	34 期	三川 廣志
48 期	渡邊 秀明	49 期	星名 恵子
55 期	初山 優	60 期	木藤 則行

円滑な同窓会運営のためのお手伝いをしています

関西風お好み焼き

どんどん亭

33期 坂口保夫



森下交差点角 すき屋並び
定休日月曜日 営業時間 17時～23時

電話 **03-3635-4823**

江東区森下2-18-1

割箸・テーブルウェアで117年



株式会社

赤田本店

AKADA COMPANY, LTD.

代表取締役 赤田 安司

(第34期)

住所 〒130-0004 東京都墨田区本所3-23-10

電話 03-3625-4184 FAX 03-3625-9399

メール akada-honten@mx5.ttcn.ne.jp

有限会社 **みのる不動産**

都知事(14)21090号

公益社団法人 東京都宅地建物取引業協会会員

代表取締役 **三 川 廣 志**

(第34期)

■亀戸店 東京都江東区亀戸7丁目11番12号 京葉道路面
TEL(3684)5851(代) FAX(3684)5850
E-mail: mk@e-minoru.com

■本 店 東京都江東区北砂7丁目4番3号 環状四号面
TEL(3644)7573(代) FAX(3640)2543

〒130-0011

東京都墨田区石原三三〇・九

TEL: 〇三・三六二・二五五九二

FAX: 〇三・三六二・二五五九二

E-mail: unagiya1948@outlook.com

うなぎ

創業明治四〇年
下町の味を伝えて一世紀

川 勇

高木 利夫

(第三十三期)
元史学部

旬の肴
柳
YANAGI

柏 俊太郎 (第35期)

〒136-0071
東京都江東区亀戸6-23-10
カーサカッシーノ1F
TEL 03-3682-0033

中 華・洋 食

南光軒

三 商 会 館 近 く

江東区牡丹1-12-12 (35期 谷 泰一)

☎ **03 (3641) 7668**

S	190 mm × 260 mm	全頁	50,000 円
A	190 mm × 260 mm	全頁	30,000 円
B	1275 mm × 190 mm	1/2 頁	15,000 円
C	925 mm × 1275 mm	1/4 頁	10,000 円
D	615 mm × 925 mm	1/8 頁	5,000 円
E	442 mm × 615 mm	1/16 頁	3,000 円

当会報は、毎年の同窓会予算に加え、皆様からの広告収入が発送費及び印刷製本費の一部として運用されております。
営利目的ではありませんので、長く料金を据え置き左記の価格で皆様にお願ひしております。
広告原稿に付きましては、当方で作成も可能です。(原稿作成費は無料)
詳しくは同窓会事務局までお問い合わせください。

広告募集中!

夢をかたちに・・・



中外徽章株式会社

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-2

TEL:03-3294-3431 FAX:03-3294-3436

<http://www.chugaikisyo.co.jp>

相談役 古田 勝一 (第26期)

傘寿から米寿へ

さん

じゅ

べい

じゅ

祝

希望は燃ゆる若き、われら...

昭和34年(1959年)なつかしの時計塔が
聳える校舎を472名で卒業した26期生(生存者340名程)は
令和2年~3年に80才の傘寿を迎え、これより先は88才の
米寿へとチャレンジして参ります。

「生涯青春で有り続けたい」との願いから、第26期は
毎年同期会を開催しております。

第26期 同期会会長 古田 勝一